

継続的な改善活動のために！

2006

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書（抜粋）]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う「財」を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来41年の歴史を着実に刻み、'04年度より工科系単科大学から、工学・環境・情報系より成る3学部15学科体制を有する工科系総合大学に移行いたしました。このような展開の中であって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'04年度に大学基準協会が実施した認証評価にて「基準に適合」との認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'05年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。（ただし、今回は企業の人事担当者の方々に対するアンケートは実施しておりません。）

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

目次

< 1 >	本調査の全体像	1
< 2 >	「満足度」に関して	7
< 3 >	分野別分析:「授業」「学習支援」に関して	33
< 4 >	分野別分析:「雰囲気・学生生活」に関して	57
< 5 >	分野別分析:「就職・進学」に関して	65
< 6 >	分野別分析:「サービスや機能」に関して	75
< 7 >	「人材の能力」に関して	89
< 8 >	重回帰分析による分析	97
< 9 >	全体サマリー	105
< 10 >	新入生アンケートより	117
< 11 >	在学生、卒業・修了生のプロフィール	133
< 12 >	教職員アンケートの分析結果	145
< 13 >	詳細データ	165
< 14 >	フリーアンサー集	215
< 15 >	調査票見本	399

< 1-1 > 調査の目的と概略

調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 設問に関しては、できるだけ属性間の差を少なくして、比較分析が行いやすいように調査設計の見直しを行った。
- 本報告書の結果は、単に「学生の満足度を高めるため」だけに役立てるわけではなく、「在學生、卒業・修了生、教職員、企業担当者といったKITを取り囲む全ての関係者(ステークホルダー)の満足度を高めるため」に役立て、「KITをより良くするための継続的改善」を進めていくことを最終的な目的としている。

調査方法

調査時期 2006年2月～4月

調査方法 下記のように属性に応じて各クラスで回収、回収ボックスによる回収と郵送による回収によって実施した。
なお、全て『無記名式』とした。

回収数 属性別の回収数は下記の通りである。前回(2005年)の調査より、在學生への調査期間をこれまでの年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
今回の全回収数は5,962サンプル

調査主体 学校法人 金沢工業大学

集計分析 (有)アイ・ポイント

調査対象

対象者	調査時点での属性	06年 回収数	05年 回収数	04年 回収数	03年 回収数	調査実施方法	備考
新入生	入学直後	1,747	1,610	1,672	724	オリエンテーションで配布、各クラスで回収	06年より新学科体制で集計
1年次生	1年次終了時点	1,364	1,379	1,007	106	担当教員に配布、各クラスで回収	05年より新学科体制で集計
2年次生	2年次終了時点	1,313	1,533	792	49	担当教員に配布、各クラスで回収	04年より新学科体制で集計
Cクラス	Cクラス終了時点	599	441	449	106	担当教員に配布、回収ボックスで回収	
卒業・修了直前	卒業・修了直前	549	610	914	976	研究室単位で配布、回収ボックスで回収	グラフでは「卒・修直前」と略
卒業・修了生	平成16年度卒業・修了生	80	97	107	163	郵送にて配布、返信用封筒で郵送にて回収	入社1年経た卒業生 グラフでは「卒・修生」と略
教員	在職中の教員	157	151	133	143	個別に配布して、回収ボックスで回収	
職員	在職中の職員	153	134	131	187	個別に配布して、回収ボックスで回収	
企業担当者	KIT卒業生が就職した企業	実施せず	485	実施せず	実施せず		今回は実施していないため分析は行っていない
合計		5,962	6,440	5,205	2,454		

調査内容と設問の見直し

各属性別に実施した主な調査項目は下記の通り。質問項目の詳細は巻末の「調査票見本」を参照。

調査名	実施年	授業	学習環境や 学習支援	学生生活	就職支援	施設・機能・サー ビス	KIT満足度	社会が求める人 材像	現在の自分の能 力
新入生 (入学直後、4月初旬に実施)	03年	-	-	概略	-	-	詳細	-	-
	04年	-	-	概略	-	-	詳細	-	-
	05年	-	-	詳細(一部)	-	-	詳細	-	-
	06年	-	-	詳細(一部)	-	-	詳細	-	-
1年次生 (2月に実施)	03年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
	05年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
	06年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
2年次生 (2月に実施)	03年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
	05年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
	06年	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細	-	詳細
Cクラス (2月に実施)	03年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細
	05年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細
	06年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細
卒業・修了直前 (2～3月に実施)	03年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
	05年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
	06年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
卒業・修了生 (2～3月に実施)	03年	概略	概略	概略	概略	概略	詳細	詳細	詳細
	04年	概略	概略	概略	概略	概略	詳細	詳細	詳細
	05年	-	-	詳細	詳細	-	詳細	詳細	詳細
	06年	-	-	詳細	詳細	-	詳細	詳細	詳細
教員 (2～3月に実施)	03年	概略	概略	概略	概略	概略	詳細	詳細	詳細
	04年	概略	概略	概略	概略	概略	詳細	詳細	詳細
	05年	-	詳細	詳細	詳細(一部)	-	詳細	詳細	詳細
	06年	-	詳細	詳細	詳細(一部)	-	詳細	詳細	詳細
職員 (2～3月に実施)	03年	-	-	概略	-	-	詳細	-	-
	04年	-	-	概略	-	-	詳細	-	-
	05年	-	-	詳細(一部)	-	-	詳細	-	-
	06年	-	-	詳細(一部)	-	-	詳細	-	-
企業 (今回は実施せず)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	05年	-	-	-	-	-	-	詳細	詳細

設問の見直しに関して

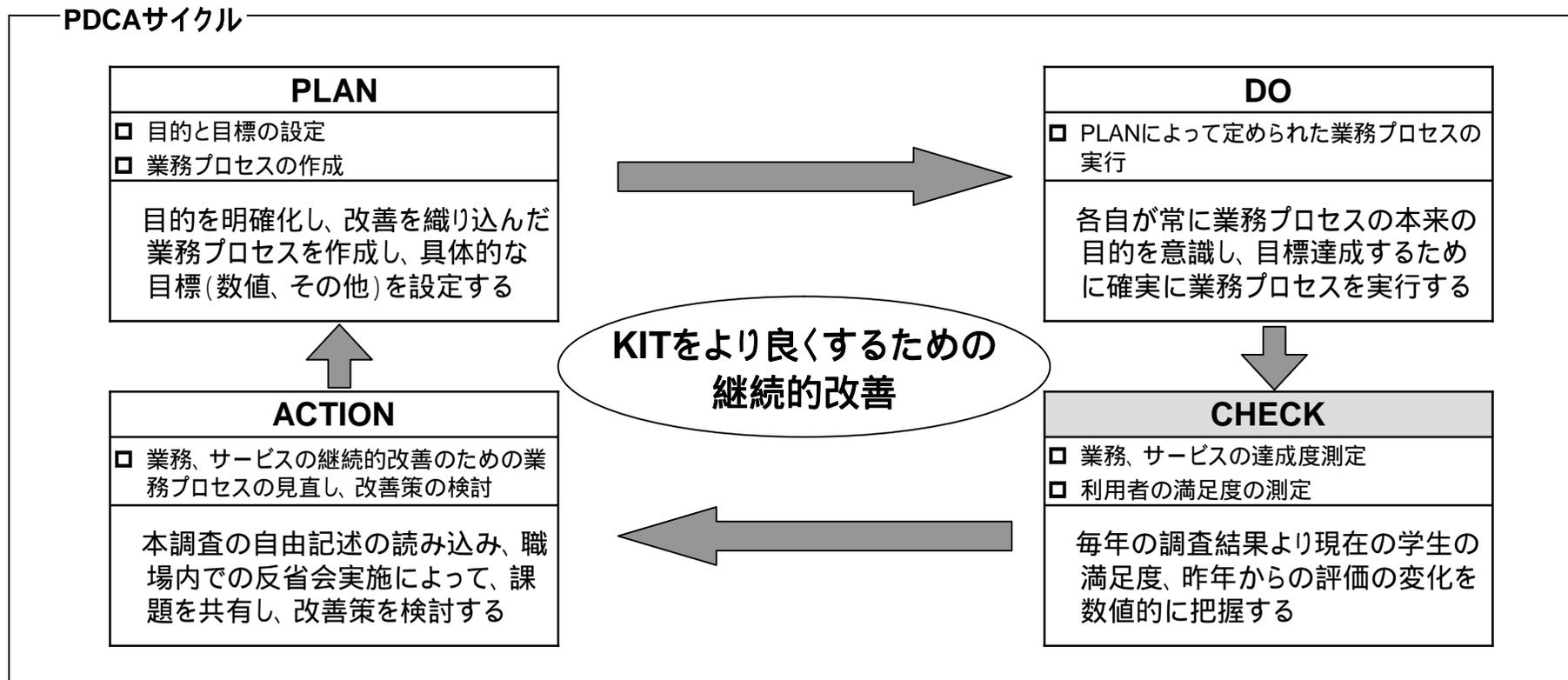
今回は重複する設問の削除を行った。また、目標に対する達成度をパーセンテージで聞く設問を追加した。

「社会が求める人材像」に関して

「社会が求める人材像」と「学生の自己評価」は全く同じ内容で聞いた。また、教員には「学生の自己評価」を「KITの卒業生評価」と置き換えて聞いた。

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには、巻末の「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年からの改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

< 1-2 > 集計・分析上の注意点

集計・分析上の注意点に関して

今回の調査結果は基本的に下記の方針で集計、分析を行っている。ただし、これらの内容と異なる際には各ページに注意書きをつけている。

分野	注意点
平均値に関して	<ul style="list-style-type: none">平均値は学生の特徴を見るために「学生平均」を算出している。これは学生全員の回答から算出している。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none">各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。今回の調査では、選択肢を「満足～まあ満足～やや不満～不満」「そう思う～ややそう思う～あまりそう思わない～そう思わない」など、4択式で構成した。加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none">折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現している。加重平均の折れ線グラフと加重平均による前年との比較棒グラフは、全て数値軸の設定を一致させている。
実施年による違い	<ul style="list-style-type: none">05年に大幅な設問の見直しを行ったが、今回の06年版でも内容が重複する設問を削除するなどして、回答者の負担を軽減する措置を行っている。上記のような見直しで実施年によって設問数が異なっているが、以前との比較は最新の調査項目で行っている。今後も調査項目の見直しは行う予定である。
学系・学科に関して	<ul style="list-style-type: none">「新入生」「1年次生」「2年次生」は新しい学科体制であるため、学科別の比較は「Cクラス」以上の学年と別に行っている。

< 2-15 > 「目標達成度」のまとめ

「学習支援計画書の学生の行動目標」は「80%以上達成」が24.7%、「60%以上達成」が75.0%と、学生の3/4は目標の6割を達成していた。

- 「学習支援計画書の学生の行動目標の達成度」は「100%達成」が1.7%と少なかったが、「80%達成」が23.0%、「60%達成」が50.3%であり、ここまです合わせると上記のように75.0%が「60%以上達成」となる。
- 達成度が低かった学生を見ると「40%達成」が14.8%であり、ここまです合わせると89.8%の学生は学生の目標の40%までを達成していることになる。
- この数値は決して低いものではなく、「40%達成」を「60%達成」へ、「60%達成」を「80%達成」へ引き上げることが今後の課題となる。

「修学基礎・進路ガイドで設定した目標」に関しては、「80%以上達成」が21.5%、「60%以上達成」が70.2%であり、「学生の行動目標」の達成度よりやや低かった。

- この質問は「1年次生」「2年次生」のみに聞いたが、全体としては上記の通りで7割の学生は「60%以上達成」となる。
- ここでも「2年次生」の達成度が低かった。「1年次生」は「80%以上達成」が25.3%に対して、「2年次生」では17.6%にとどまっていた。
- このように「2年次生」は自らが設定した目標に対しても達成度が低く、モチベーションが低下していることが予想される。

「学生の行動目標」の達成度は「卒業・修了直前」が最も高く、「Cクラス」も目標達成度が良い状態であることがうかがえ、「2年次生」の達成度が最も低かった。

- 学年別に見ると「卒業・修了直前」の達成度は最も高く、「80%達成」が31.5%と非常に多かった。「20%以下」の割合もやや多いが、卒業を控えて学習に真剣に取り組んでいる学生が多いものと思われる。
- 「Cクラス」は他の章で見たように授業や学習支援の満足度は高かったが、「学生の行動目標」の達成度は「卒業・修了直前」を下回っていた。ただし、「60%達成」までを合わせた割合は最も多く良い状態にあることが分かる。
- そして、満足度と同様に、やはり「2年次生」の達成度が最も低かった。

「修学基礎・進路ガイドの目標」の達成度は「情報マネジメント」が高く、次いで「機械」「建築」と続いていた。

- 学科別にはそれほど大きな差はなかったが、「情報マネジメント」の達成度がやや高く、「100%達成」が5.5%、「80%以上達成」が34.6%であった。
- 次いで「機械」では「80%以上達成」が30.9%、「建築」では27.7%というものであった。
- 一部に例外（都市デザイン）はあるが、「環境・建築学部」はやや達成度が高い傾向がみられた。

新学科では「機械」「心理情報」「情報マネジメント」の達成度が高めで、旧学科では「電気」が非常に高く「先端材料」「土木」「建築」「機械」「機械システム」が高かった。

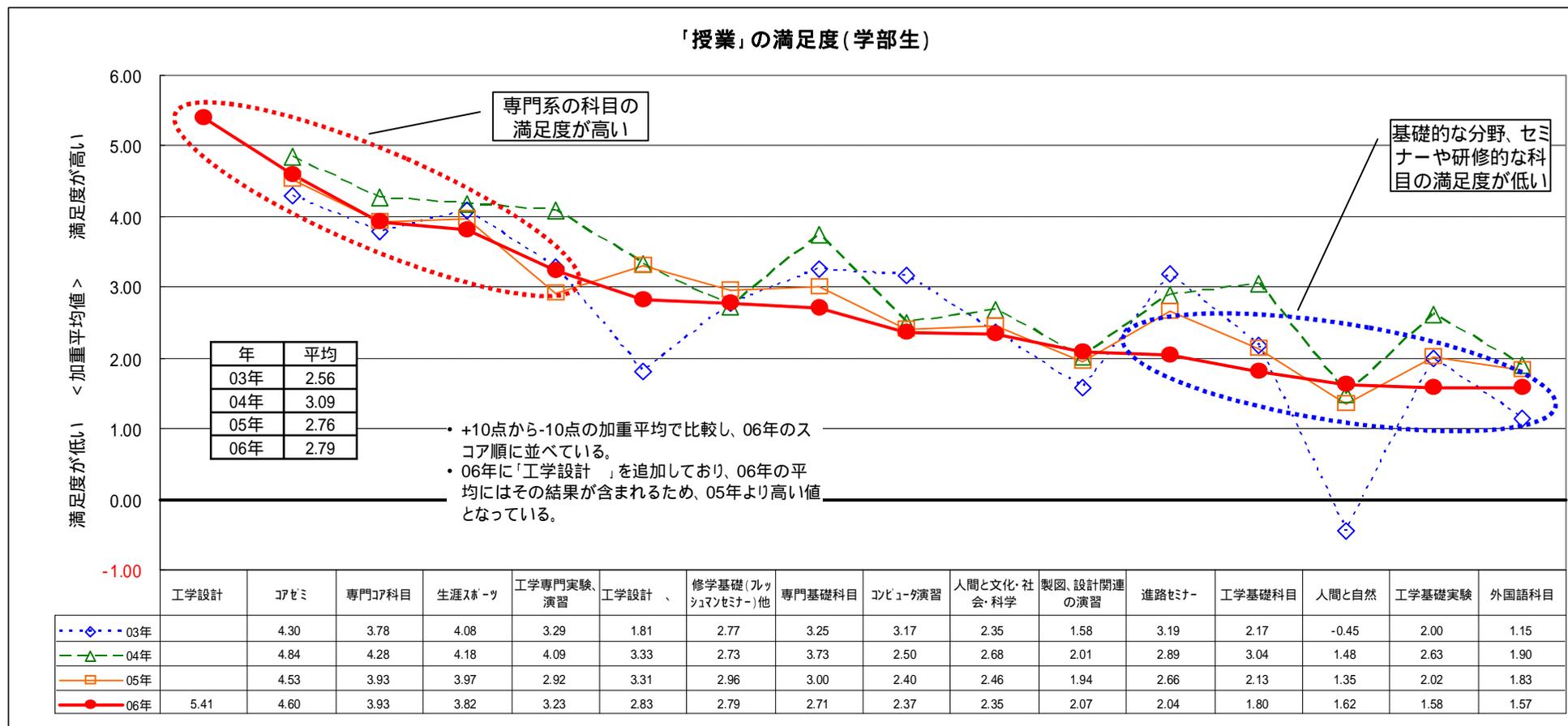
- 「80%達成」を基準として見ると、1年次生～2年次生の新学科では「機械」「心理情報」「情報マネジメント」の達成度が高めであったが、学科間の差はそれほど大きくなかった。
- 一方、Cクラス～卒業・修了直前の旧学科では学科間の差が大きく、最も達成度の高い「電気」では「80%達成以上」が48.1%と非常に高く、次いで上記の通り「先端材料」「土木」などが続いていた。
- 分野別満足度と同様に、高学年ほど学科間の差が大きくなることも分かった。

KITの総合満足度別に見ると、当然ながら満足度が高い学生は両目標の達成度が高く、「KITに満足」という学生の6割は目標を80%達成していると回答していた。

- 「KITに満足」という学生は「学生の行動目標を100%達成した」が13.1%、「修学基礎・進路ガイドの目標を100%達成した」が16.5%と非常に多かった。
- そして、上記の通り各目標を80%達成したという回答は「KITに満足」では6割程度であり、「KITに不満」では2割に満たないものであった。
- 「KITに不満」では半数の学生が目標の達成度が40%以下の達成にとどまっておらず、目標も達成できず満足感も得られないという悪循環に陥っているものと思われる。

< 3-1 > 「授業」の満足度

- 「授業」の満足度に関しては、06年より「卒業・修了直前」の学生の「工学設計」が加わっているが、満足度の加重平均で比較すると、06年の中では「工学設計」の満足度が最も高いとされていた。
- それ以降を見ると、「コアゼミ」「専門コア科目」「工学専門実験、演習」など、1年次、2年次は受講していない専門系の科目が上位に見られた。なお、専門ではない「生涯スポーツ」の満足度も高かった。
- 逆に満足度が低かったのは「外国語科目」「工学基礎実験」「人間と自然」「工学基礎科目」「進路セミナー」といったものであり、基礎的な分野、セミナーや研修的な科目の満足度が低い傾向が見られた。
- 平均で以前との比較を行うと、03年が最も満足度が低く、04年に上昇し、05年(2.76点)と06年(2.79点)はほぼ同じというものであった。06年に「工学設計」が加わっているために全体平均は05年より0.03点高くなっているが、グラフを見ると05年より全体的にやや満足度が低下していると言える。
- ただし、大まかな傾向は05年から変わっておらず、「専門系の満足度が高く、基礎的な分野、セミナーや研修的な科目の満足度が低い」という傾向が見られた。



< 3-19 > 「学習支援」の満足度のまとめ

「学習支援」としては「学習支援計画書」の満足度が最も高く、次いで「修学アドバイザーのアドバイス」などが挙げられていたが、満足度はそれほど高いとは言えなかった。

- 上記の通り「学習支援計画書」の満足度が最も高かった。そして、「修学アドバイザーのアドバイス」「修学相談、教務課のアドバイス」「オフィスアワー」など、対面してのアドバイスや指導の満足度が比較的高いことが分かった。
- 上記の4点はわずかにプラススコアであり、満足している学生が半数を少し超えているという状況であった。

「Cクラス」は学習支援に対する満足度が非常に高かった。そして「教員」は、「オフィスアワー」がそれほど役に立っていないのではないかと考えており、意識の差が見られた。

- 「Cクラス」が全般的に満足度が高く、「2年次生」はほとんどの項目でマイナスとなるなど、学習支援に対する満足度は学年によって差があった。
- 「教員」はほとんどの学習支援には学生が満足しているものと考えていたが、「オフィスアワー」に対しては満足していないのではないかと考えていた。この結果から見ると、教員は「オフィスアワー」に対して改善の余地があると考えているものと思われる。

不参加者の影響が大きいと思われるが、「海外研修・留学」の満足度が最も低く、次いで「QPAポイント」「学内講演会」「キャンパスノート」の満足度が低かった。

- 「海外研修・留学」の満足度は05年から引き続き非常に低かったが、これには不参加者の影響が大きく関係していると思われる。
- 「QPAポイント」「キャンパスノート」などは仕組みに関する事柄であるが、不満を聞き取っていくことで何らかの対策を考えることができると思われる。
- また、「学内講演会」に対する不満はテーマや講師の選定に対する意見ではないかと思われるため、学生からの要望を聞くことで、改善できるのではないかとと思われる。

学科別には「1年次生」で「バイオ」、「2年次生」で「航空システム」、「Cクラス」で「居住環境」、「卒業・修了直前」で「土木」の満足度が高く、一部の学科に偏るといった傾向は見られなかった。

- 「1年次生」で学習支援満足度の平均が高かった学科では「修学アドバイザーのアドバイス」の満足度が高く、修学アドバイザーの指導が重要であることが分かった。
- また、「卒業・修了直前」でも「修学アドバイザー」「オフィスアワー」「修学相談・教務課」といった対面してのアドバイスの満足度と全体満足度が相関している傾向があり、前出の通り対面しての指導が重要であることが確認できた。

05年と比較すると「学内講演会」の満足度が上がっており、「キャンパスノート」に対する評価が大きく下がっていた。

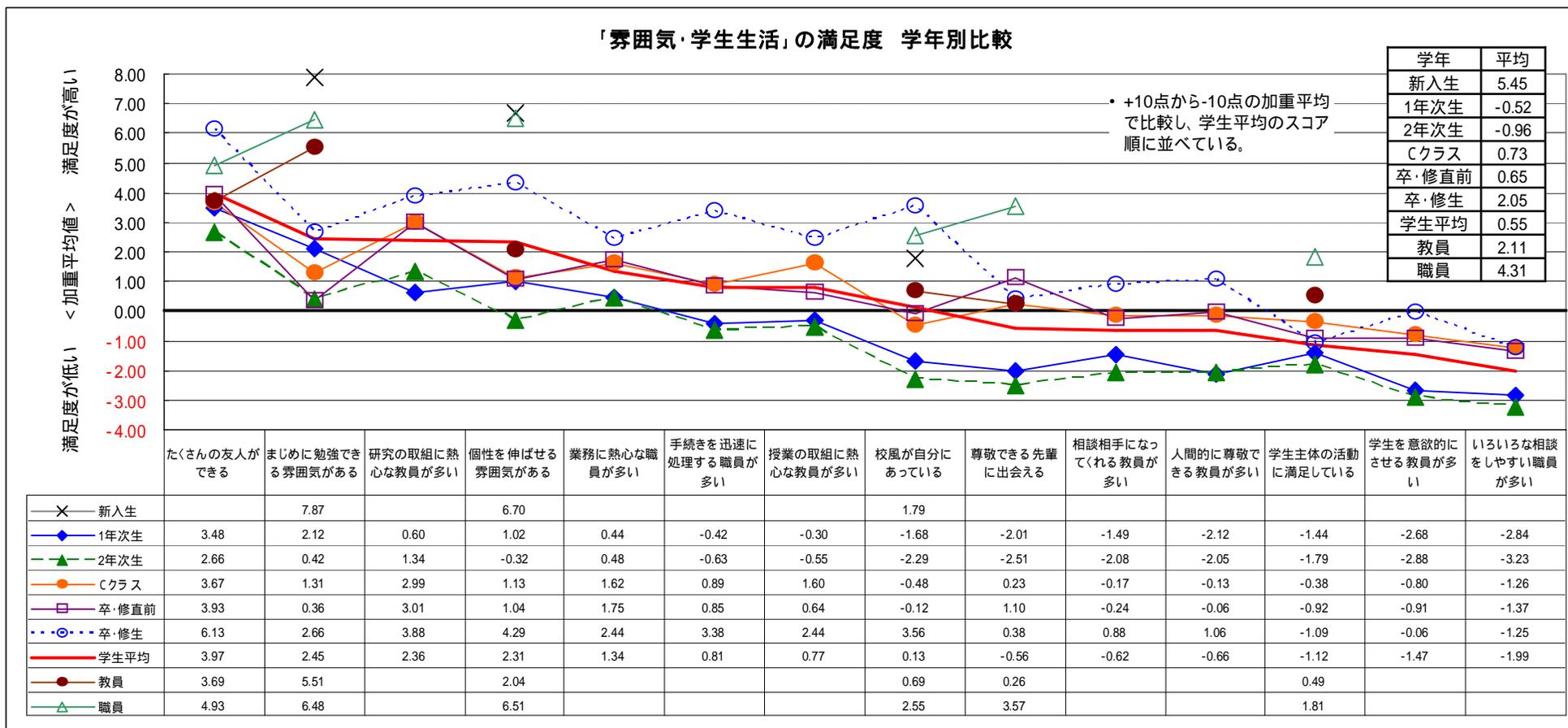
- 「学内講演会」は全学年で05年より満足度が上がっており、全体としても最も評価が上がっていた。ただし、満足度としてはマイナススコアであり、継続的な改善が求められていると言える。
- 一方、「キャンパスノート」の満足度は全学年で下がっていた。特に「2年次生」の満足度低下が大きく、内容や運用に変化があったのではないかとと思われるほどであった。

各学習支援策に対する満足度はハッキリとしており、「学習支援全体」の満足度との相関関係は見られなかった。

- ここでも当然ながら「学習支援全体」に満足している学生は全ての学習支援策の満足度が高いという傾向が確認できた。
- しかし、他の分野のように「学習支援全体」の満足度と相関関係にある項目は見つからなかった。
- わずかに、学習支援に満足している学生ほど「学内講演会」の満足度が高い傾向が見られたが、これには、学習支援に満足している学生ほど「学内講演会」に出席しているといった要因もあるのではないかとと思われる。

< 4-2 > 「雰囲気・学生生活」の満足度 学年別比較

- まず平均で学生の満足度を比較すると「新入生」が最も満足度が高く、次いで「卒業・修了生」「Cクラス」「卒業・修了直前」「1年次生」「2年次生」と続いており、「1年次生」と「2年次生」は平均がマイナスで「雰囲気・学生生活」の満足度は低いと言える。
- 「新入生」には3項目しか聞いていないが、「まじめに勉強できる雰囲気」「個性を伸ばせる雰囲気」はあると感じているが、「校風」が自分にあっているかどうかに関しては不安を感じている。早い時期にこの不安を解消することが重要ではないかと思われる。
- 「1年次生」「2年次生」は全体的に低いスコアであり、雰囲気や学生生活、教職員の対応などに対する不満が大きかった。「Cクラス」になると全体的にスコアが上がっている。学校に馴染むことでこれらの満足度は上がるようであるが、比較的フレッシュな状態の「1年次生」の段階にこれだけの不満を感じているのは課題だと考えられ、今後は何がこのような不満を引き起こしているかを明らかにする必要があると言える。
- 「教員」「職員」に関しては6項目しか聞いていないが、「職員」は全般的にスコアが高く、学生は充実した学生生活を送っていると考えていた。「教員」も高めであったが「校風が自分に合っている」「尊敬できる先輩に出会える」といった点では学生の満足度はそれほど高くないのではないかと考えているようであった。



< 4-5 > 「雰囲気・学生生活」の満足度のまとめ

「たくさんの友人ができる」「まじめに勉強できる雰囲気がある」「研究に熱心な教員が多い」「個性を伸ばせる雰囲気がある」と感じている。

- 最も満足度が高かったのは「たくさんの友人ができる」であった。しかし、「尊敬できる先輩に出会える」はマイナススコアであった。
- また、大学に「まじめに勉強できる雰囲気」「個性を伸ばせる雰囲気」を感じており、雰囲気としても大きな問題はないと思われる。
- 教職員に関しては「研究の取組に熱心な教員」「授業の取組に熱心な教員」「業務に熱心な職員」「手続きを迅速にする職員」は多いと感じており、通常の業務や事務的な処理に関しての不満はそれほどないようであった。

「学生を意欲的にさせる教員」「人間的に尊敬できる教員」「相談相手になってくれる教員」「いろいろな相談をしやすい職員」が少ないなど、教職員との人間的なつながりは薄いと感じている。

- 最も満足度が低かったのは「いろいろな相談をしやすい職員が多い」であり、職員とは事務的な面以外では接点も少なく、距離を感じているのではないかとと思われる。
- また、教員に対しても、相談相手になったり、学生を意欲的にさせたり、尊敬できたりする教員は少ないと感じていた。
- 学生が教職員とどのような関係を持ちたいと考えているかは不明であるが、現段階ではあまり密なコミュニケーションは持っていないようであった。

05年よりも教職員に対する評価は良くなっているが、「学生主体の活動」や「尊敬できる先輩に出会える」「たくさんの友人ができる」などの満足度がわずかに低下していた。

- 全体的に05年との差はわずかであったが、「手続きを迅速に処理する職員」「相談相手になってくれる教員」「研究の取組に熱心な教員」「業務に熱心な職員」が増加していると感じているようであった。
- 一方、「学生主体の活動」に対する不満は拡大しており、「尊敬できる先輩」「たくさんの友人」はわずかに減り、「人間的に尊敬できる教員」も減っているという評価であった。
- 「教員」「職員」も、わずかではあるが雰囲気は悪くなっていると感じていた。

学年別に見ると「新入生」の満足度が最も高く、「卒業・修了生」「Cクラス」「卒業・修了直前」と続き、「1年次生」「2年次生」は非常に満足度が低かった。

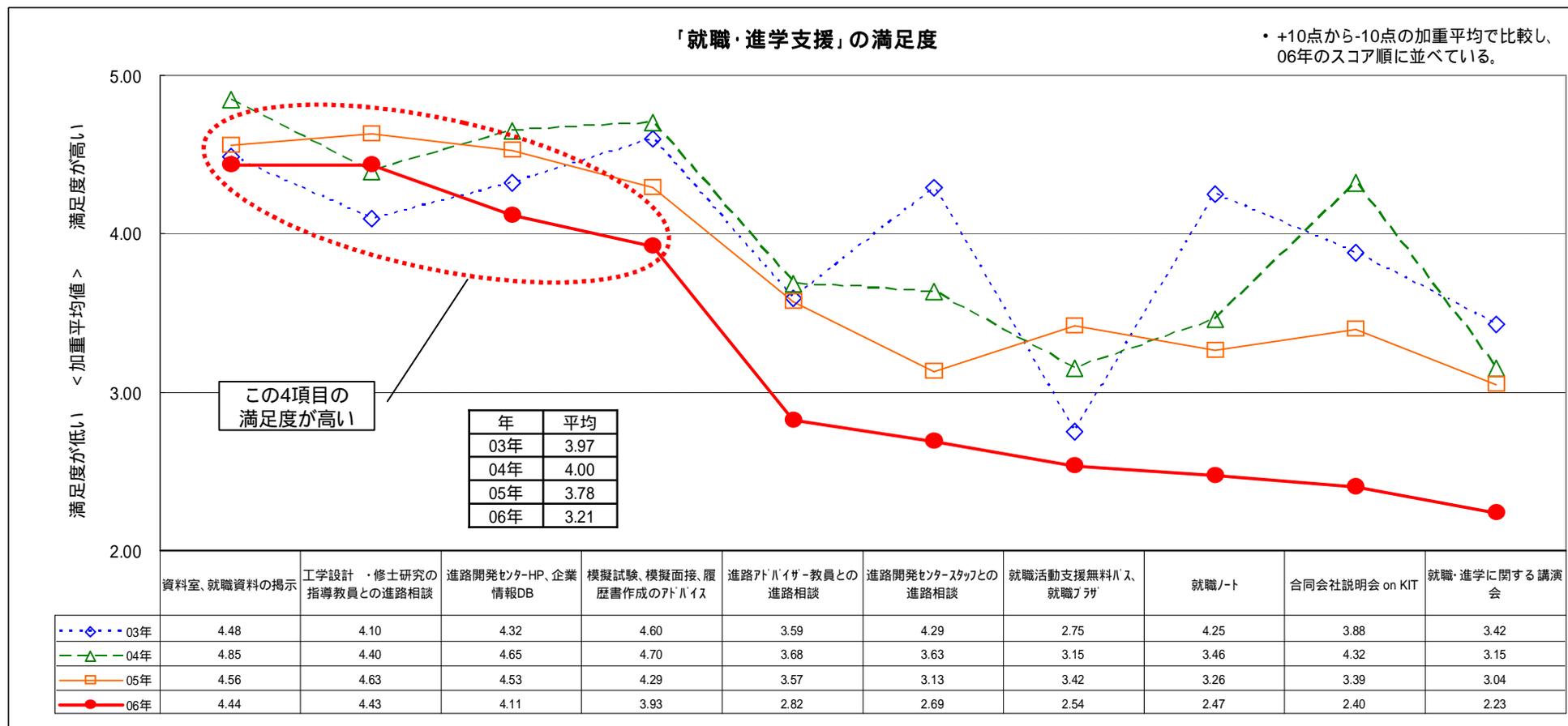
- 「新入生」には一部の項目しか聞いていないが、KITに対する期待は非常に高い。ただし、「校風」が自分にあっているかどうか、やや不安を感じている。
- 「1年次生」「2年次生」は全体的に低いスコアで、平均はマイナスであった。特に「教職員」に対する不満が大きいようであった。
- 入学して1年しか経っていない「1年次生」が学校の雰囲気や学生生活に大きな不満を感じているのは注意すべき点であり、詳細を把握する必要があると言える。

「学生主体の活動(サークルや工大祭)」の満足度と学生生活の総合的な満足度との関係は強く、学生がサークルや工大祭などに大きなウェイトを置いていることが確認できた。

- 「学生主体の活動(サークルや工大祭)」に満足している学生ほど、学生生活の総合的な満足度が高く、この2つの項目の関係が強いことが確認できた。
- サークルや工大祭を大学が直接サポートすることはできないが、参加しやすい環境づくりや間接的サポートが学生の満足度向上につながると思われる。
- 一方、「たくさんの友人ができる」「まじめに勉強できる雰囲気がある」などは、総合満足度との関係が薄く、総合満足度の低い学生もそれらに関する満足度は高いことが分かった。

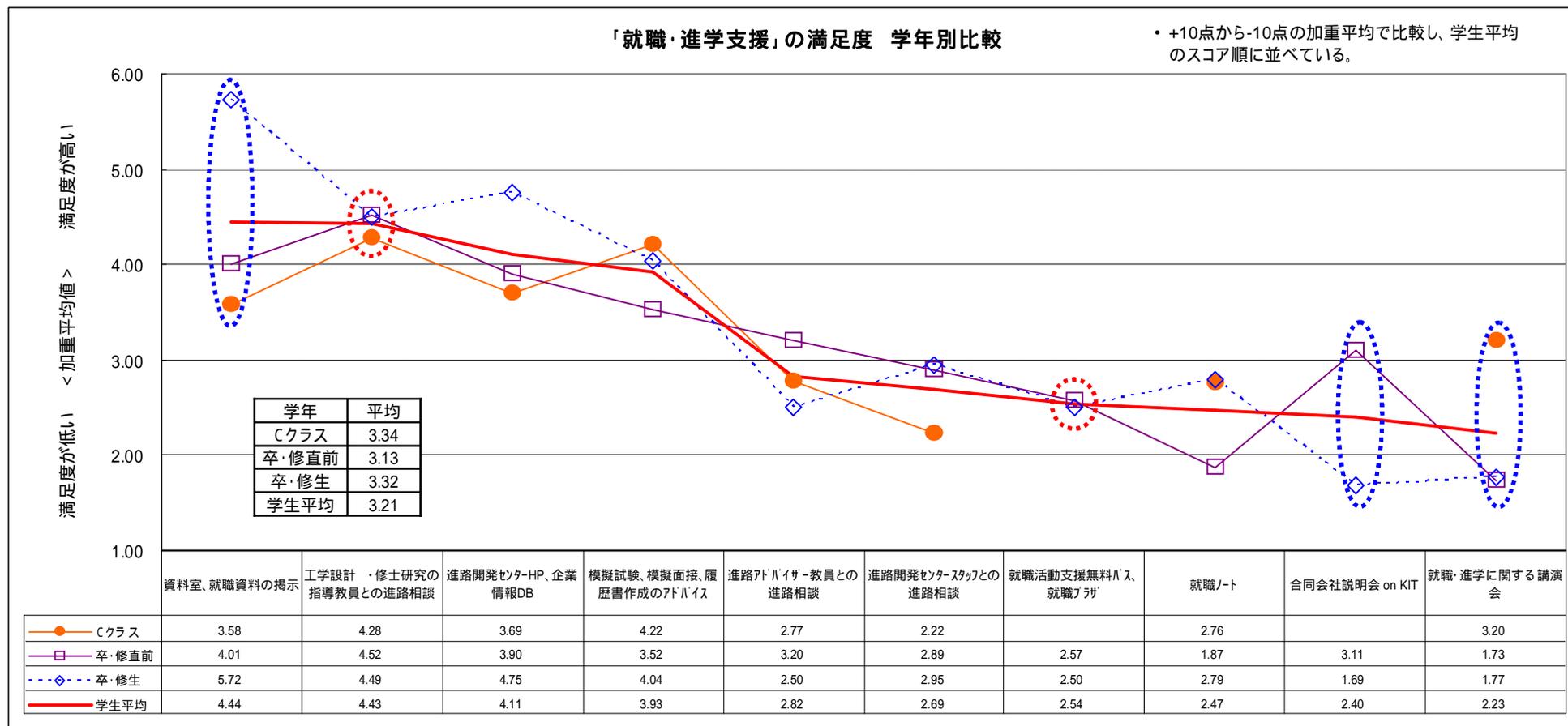
< 5-1 > 「就職・進学支援」の満足度

- 「就職・進学支援」は03年から同じ形式で聞いているため、同条件で比較が可能となっている。
- 06年の満足度を見ると、「資料室、就職資料の掲示」「工学設計・修士研究の指導教員との進路相談」「進路開発センターHP、企業情報DB」「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」の4項目の満足度が高めであった。
- 満足度が最も低かったのは「就職・進学に関する講演会」であり、次いで「合同会社説明会 on KIT」「就職ノート」などの満足度も低めであった。ただしスコアは全てプラスであり、「就職・進学支援」には大きな不満はないものと思われる。
- 平均で以前との比較を行うと、03年(3.97点)と04年(4.00点)はほとんど変わらないが、05年(3.78点)にわずかに低下し、06年(3.21点)には更に低下しており、「就職・進学支援」の満足度は04年以降、年々低下していることが確認できた。



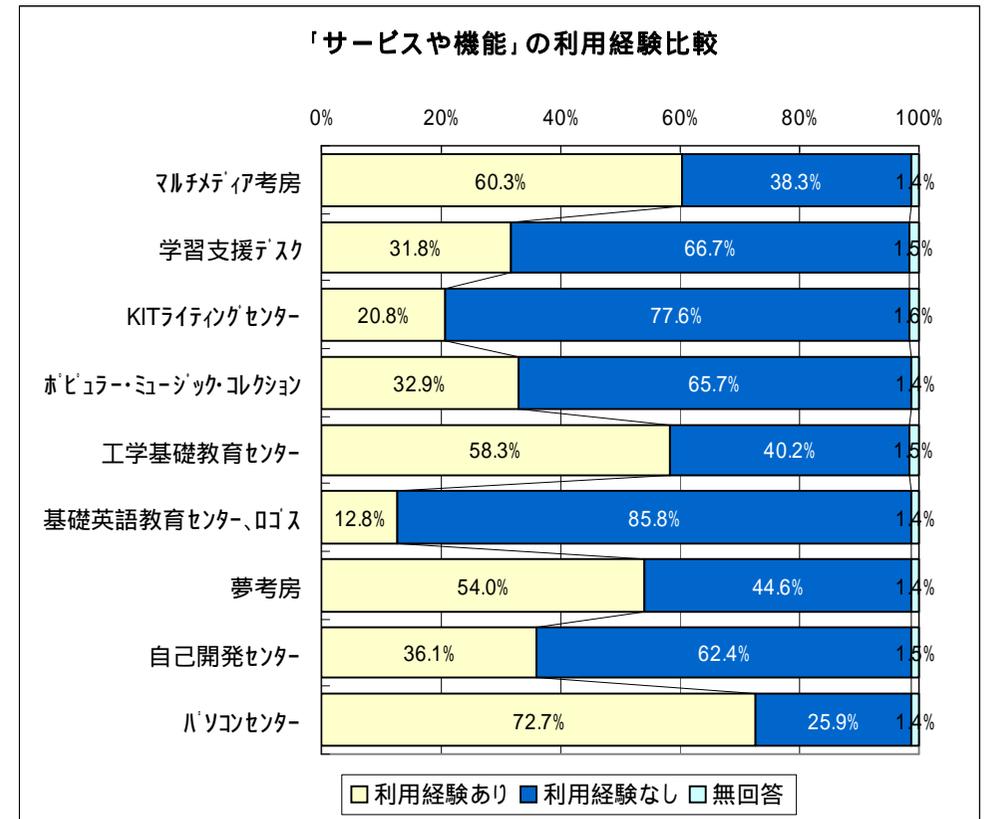
<5-2> 「就職・進学支援」の満足度 学年別比較

- 「就職・進学支援」に関する質問は「Cクラス」「卒業・修了直前」「卒業・修了生」の3属性に聞いているため、それらの比較を行った。
- まず平均で比較すると、差はそれほど大きくないが「Cクラス」の満足度が最も高く、それに次ぐ「卒業・修了生」はスコアとしてはほとんど変わらなかった。そして、「卒業・修了直前」の満足度が最も低かった。ただし、この3者のスコアは低いものではなく、満足度は全体的に高いと言える。
- 学年によって満足度の差が大きいものと小さいものがあり、「工学設計・修士研究の指導教員との進路相談」「就職活動支援無料バス、就職プラザ」の評価はどの学年からも評価が高かった。
- 一方、「資料室、就職資料の掲示」の評価は開きがあり、活動開始から間もない「Cクラス」は不満を感じており、活動を終了した「卒業・修了生」の満足度は高かった。また「合同会社説明会 on KIT」「就職・進学に関する講演会」も学年によって差が大きかった。
- これらの差は、就職・進学に関する活動において置かれた立場、タイミングなどが異なるために出てきたものであると思われ、単純にその学年が不満を感じているという解釈はできないものと言える。



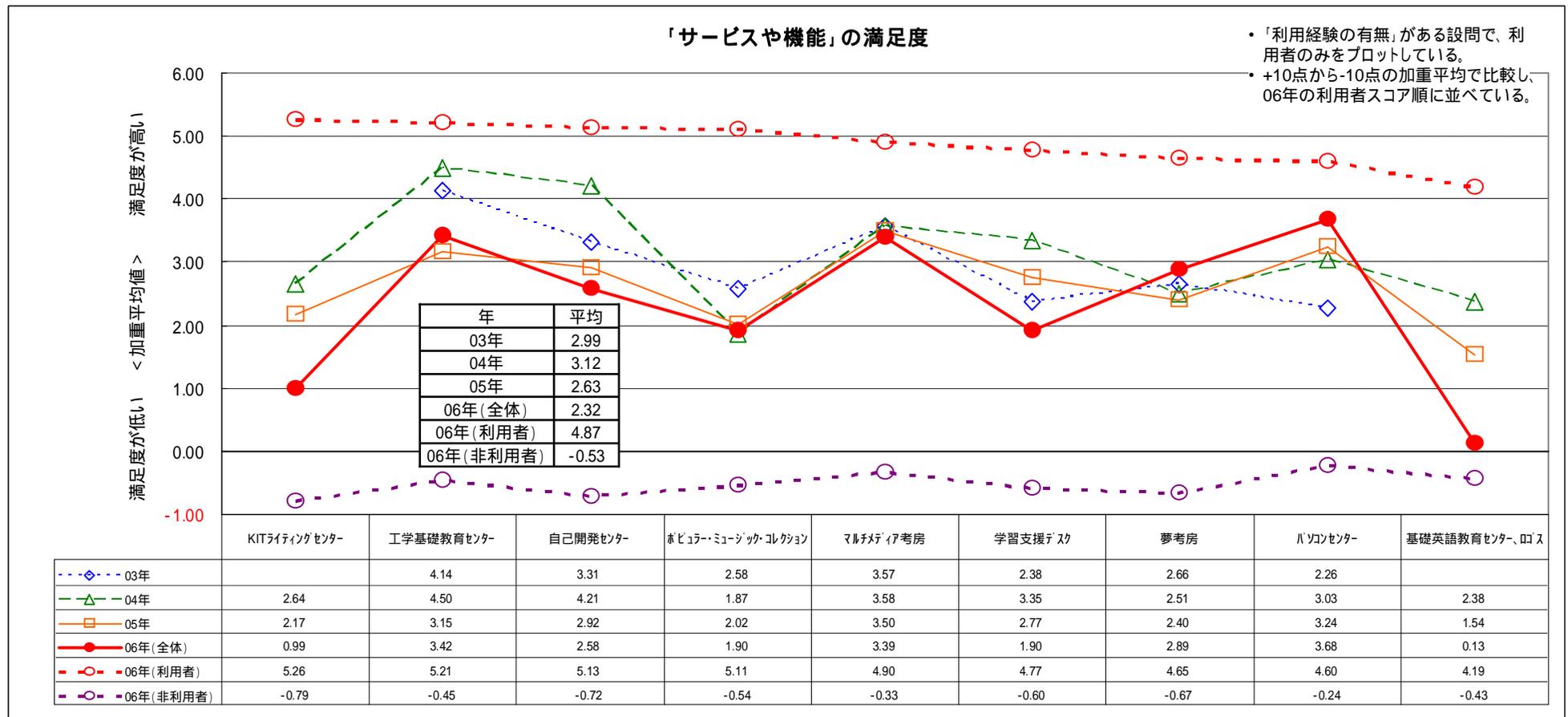
< 6-1 > 「サービスや機能」の利用経験比較

- 06年より一部の「サービスや機能」に関して「利用経験の有無」を聞いている。
- 右記の9項目が「利用経験の有無」を聞いた項目であるが、この中で最も利用経験者が多かったのは「パソコンセンター」の72.7%であった。
- 次いで、「マルチメディア考房」が60.3%、「工学基礎教育センター」が58.3%、「夢考房」が54.0%であり、これらの4つが利用率5割を超えていた。
- 一方、利用率が最も低かったのは「基礎英語教育センター、ロゴス」であり、利用者の割合は12.8%にとどまっており、「KITライティングセンター」も利用率が20.8%とやや低めであった。
- 「自己開発センター」(36.1%)、「ポピュラー・ミュージック・コレクション」(32.9%)、「学習支援デスク」(31.8%)の利用率は3割台であった。
- 各サービスや機能に関して、どの程度の利用率が適切なのかは不明であるが、全学生を対象としたサービス、機能として考えると、現在の利用率はやや低いのではないかとと思われる。
- ただ利用率の向上を目指す必要はないが、妥当な利用率を考え、利用促進を促すことも必要なのではないかとと思われる。

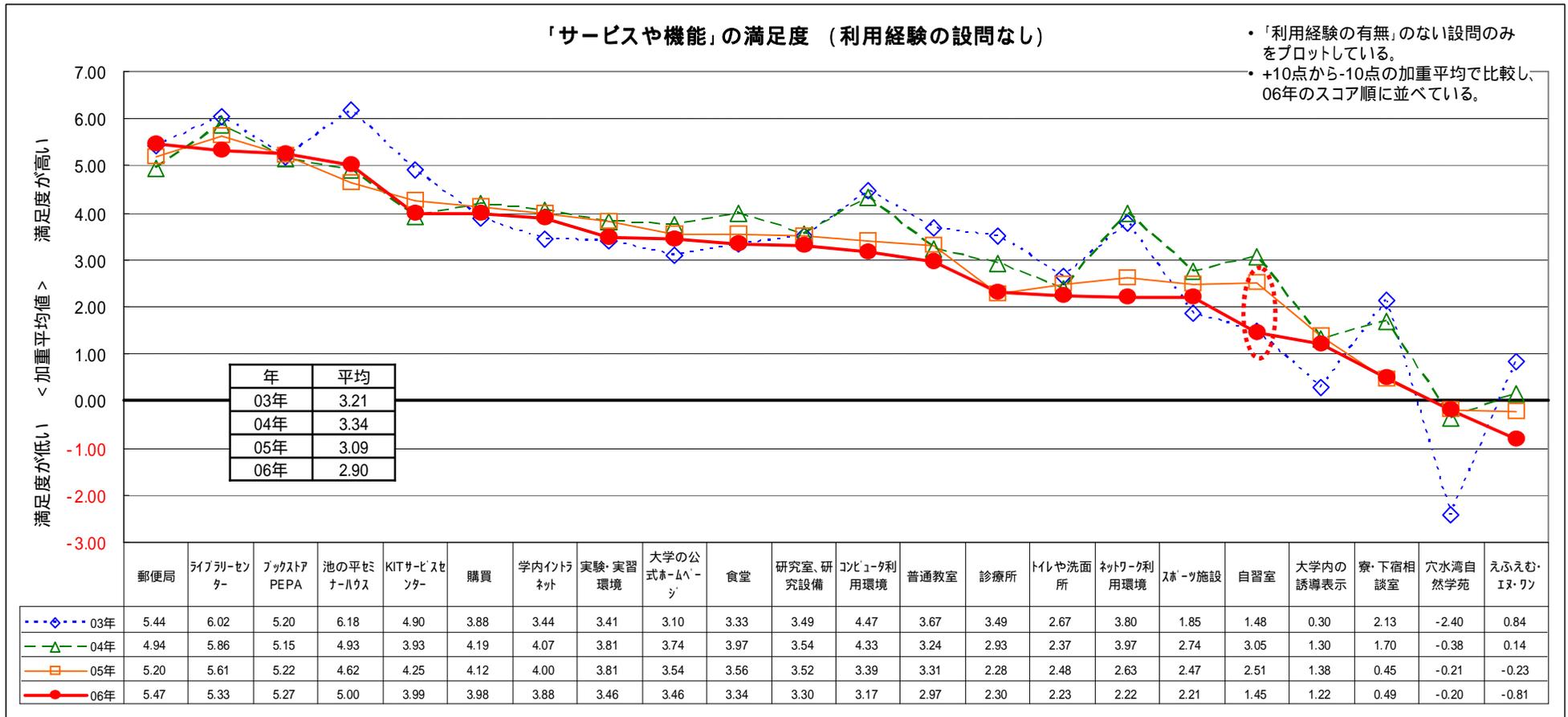


< 6-3 > 「サービスや機能」の満足度

- 「利用経験の有無」を聞いている「サービスや機能」は別に集計した。
- 「利用者」の満足度は全てに対して非常に高く、中でも「KITライティングセンター」の満足度が最も高かった。「KITライティングセンター」の利用率は低かったが、利用者からの評価は高いということが分かった。一方、「基礎英語教育センター、ロゴス」は利用率も低かったが、満足度もこの9項目の中では最も低く、利用率が低いものでも違いがあることが分かった。
- 「非利用者」の評価を見てもあまり意味はないが、項目別にあまり差は見られなかった。
- 以前との比較に関しては「06年(全体)」を使う必要があるが、「利用経験の有無」を聞いているため全く同じ状態で比較できるものではない。
- そのような中で平均を比較すると、「06年(全体)」のスコアは過去4年間で最も低いものであった。これには「非利用者」が割り切って厳しい評価をしたといった要因も考えられるため、来年との比較で傾向が見えてくるものと思われる。

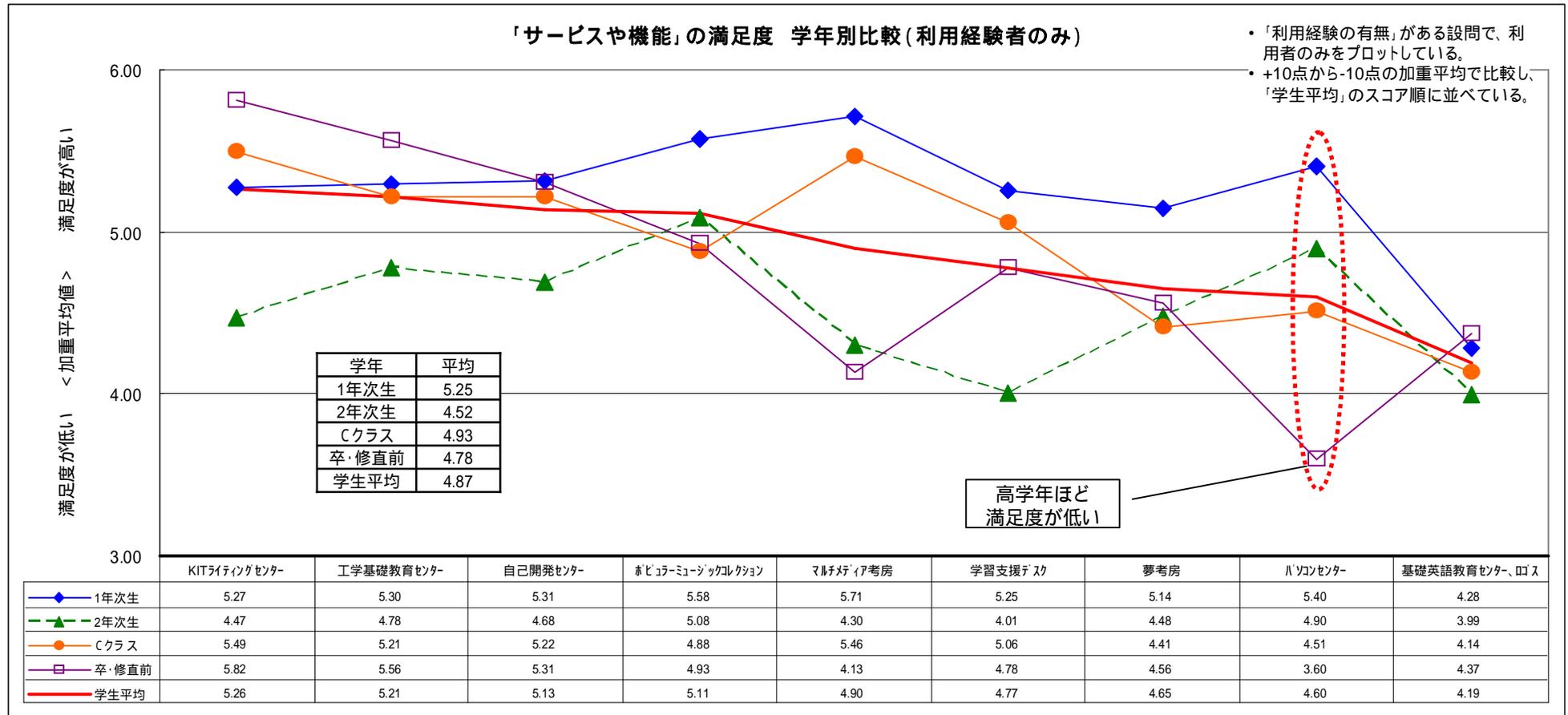


- 「利用経験の有無」を聞いていない項目に関しては、以前の結果と全く同じ状態で比較することが可能である。
- まず、06年の結果を見ると「郵便局」の満足度が最も高く、次いで「ライブラリーセンター」「ブックストアPEPA」「池の平セミナーハウス」などの満足度が高めであった。
- 逆に最も低かったのは「えふえむ・エヌ・ワン」であり、これと「穴水湾自然学苑」の2つだけがマイナススコアとなっており、残念ながら不満を感じている学生の方が多かったということになる。そして、「寮・下宿相談室」「大学内の誘導表示」「自習室」などの満足度が低かった。
- 平均で以前の結果と比較すると、満足度は04年より低下傾向にあり、06年は今までで最も低いスコアとなっていた。
- 各項目を05年と比較するとそれほど大きく変わっているものではなく、「自習室」の低下がやや大きい程度であった。

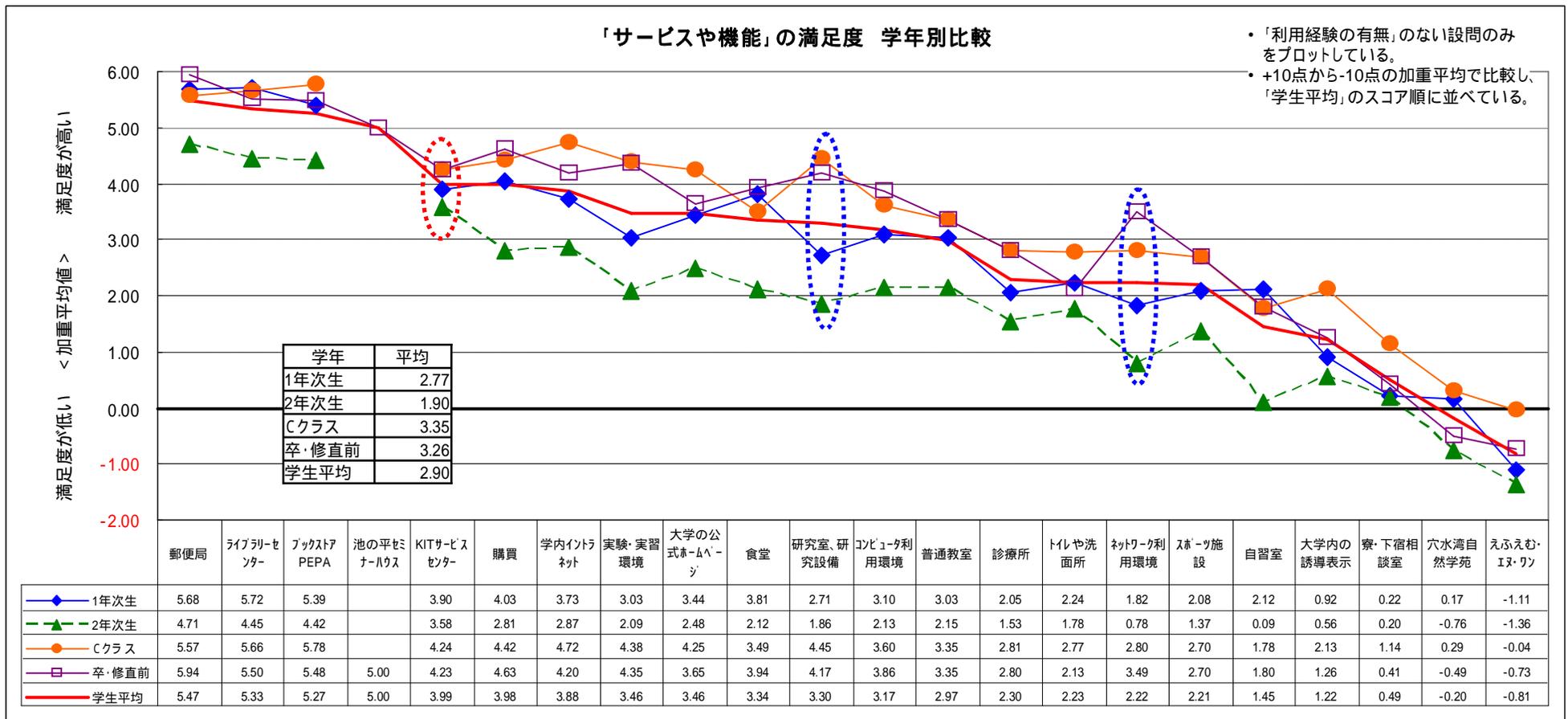


< 6-4 > 「サービスや機能」の満足度 学年別比較

- 学年別比較も「利用経験の有無」で分けて分析をした。
- 利用経験を聞いた9つの項目で平均を見ると、「1年次生」の満足度が最も高く、次いで「Cクラス」「卒業・修了直前」「2年次生」の順に満足度は低下していた。ただし、ここでは利用経験者のみを対象としているため、どの学年も満足度は比較的高かった。
- 学年別には「1年次生」は全ての項目が学生平均を上回っており、「マルチメディア考房」「パソコンセンター」の満足度が高めであった。
- 「2年次生」は全般的に低く、特に「KITライティングセンター」「学習支援デスク」の満足度が低かった。そして、「パソコンセンター」の満足度が高めであった。また、「卒業・修了直前」では、「マルチメディア考房」「パソコンセンター」の低さが目立っていた。
- 学年による傾向としては、「パソコンセンター」は学年が上がるにつれて満足度が低下していた。これは学生のニーズが変化しているなどの要因が考えられる。その他の項目では学年による傾向はうかがえなかった。



- ここでは「利用経験の有無」を聞いていない項目だけを学年別に比較した。
- まず、「平均」で学年別の比較を行うと「Cクラス」の満足度が最も高く、次いで「卒業・修了直前」「1年次生」「2年次生」という順であった。
- 個別の項目を見ると、「1年次生」は全体的に学生平均に近い傾向であり、大きな特徴は見られなかった。マイナス評価となっていたのは「えふえむ・エヌ・ワン」だけであった。
- 「2年次生」は全ての項目で最も低く、「サービスや機能」に対する満足度が非常に低いことが確認できた。
- 「Cクラス」は全ての項目が「学生平均」を上回っていた。特に「研究室、研究設備」「大学内の誘導表示」などの満足度がやや高めであった。そして、「卒業・修了直前」も全般的に満足度が高く、「ネットワーク利用環境」の高さが目立っていた。
- 学年による差を見ると、「KITサービスセンター」の評価は学年による差が少なかった。一方、「研究室、研究設備」「ネットワーク利用環境」は学年による評価の差が大きく、利用頻度や利用内容、ニーズの差などが現れたものと思われる。



< 6-7 > 「サービスや機能」の満足度のまとめ

利用経験を聞いた9施設の中では「パソコンセンター」の利用率が最も高く、次いで「マルチメディア考房」「工学基礎教育センター」「夢考房」であり、この4つが利用率5割を超えていた。

- 最も高かった「パソコンセンター」の利用率は72.7%と高く、上記の4つの施設で利用率が5割を超えていた。
- 一方、利用率が最も低かったのは「基礎英語教育センター、ロゴス」の12.8%で、次いで「KITライティングセンター」が20.8%であった。
- ただ利用率の向上を目指す必要はないが、利用率が1割から5割程度のもが多く、全学生向けの機能としては決して高い利用率とは言えない。

9施設の利用率を学年別に見ると、差の大小はあるがほとんどの施設で高学年ほど利用率が高く、低学年に施設の存在自体や利用方法が広報されていない可能性が考えられる。

- 「学習支援デスク」「夢考房」「自己開発センター」「パソコンセンター」などをはじめとして、ほとんどの項目で高学年ほど利用率が高い傾向が見られた。
- この学年による差には「低学年の時には必要ない」といった理由も考えられるが、全体的に低学年の利用促進策を考える必要がある。
- 低学年の利用率がなぜ低いのかを明らかにする必要があるが、施設の存在、場所といった基本的な事柄や、機能、利用方法もしっかりと広報することでより有効活用されるようになると思われる。

各施設の利用経験者の満足度は非常に高かった。特に利用者割合が低かった「KITライティングセンター」の満足度が高く、利用者からの評価は高いことが確認できた。

- 利用経験者の利用施設に対する満足度は施設に係わらず非常に高かった。
- 特に「KITライティングセンター」の満足度が高かった。これは利用率としては2割と低かったが、数は少ないが利用者の評価は高いことが分かる。
- 「基礎英語教育センター、ロゴス」の利用率も低かったが、満足度に関しても最も低く、利用率が低いものでも満足度が分かる結果となっていた。

利用経験を聞いていない施設では「郵便局」の満足度が最も高く、次いで「ライブラリーセンター」「ブックストア」「池の平セミナーハウス」などの満足度が高かった。

- 上記の通り、利用経験を聞いていない施設では「郵便局」「ライブラリーセンター」「ブックストア」「池の平セミナーハウス」などの満足度が高かった。
- 満足度が最も低かったのは「えふえむ・エヌ・ワン」であり、「穴水湾自然学苑」と2つの施設の加重平均はマイナスであり、不満が大きいようであった。
- また、「寮・下宿相談室」「大学内の誘導表示」「自習室」の満足度が低かった。学習に直結する「自習室」が低い点は気になるポイントであった。

05年と比較すると満足度が低下した施設が多く、最も満足度が下がっていたのは「自習室」であり、他にも学習に直結する施設の満足度低下が目立っていた。

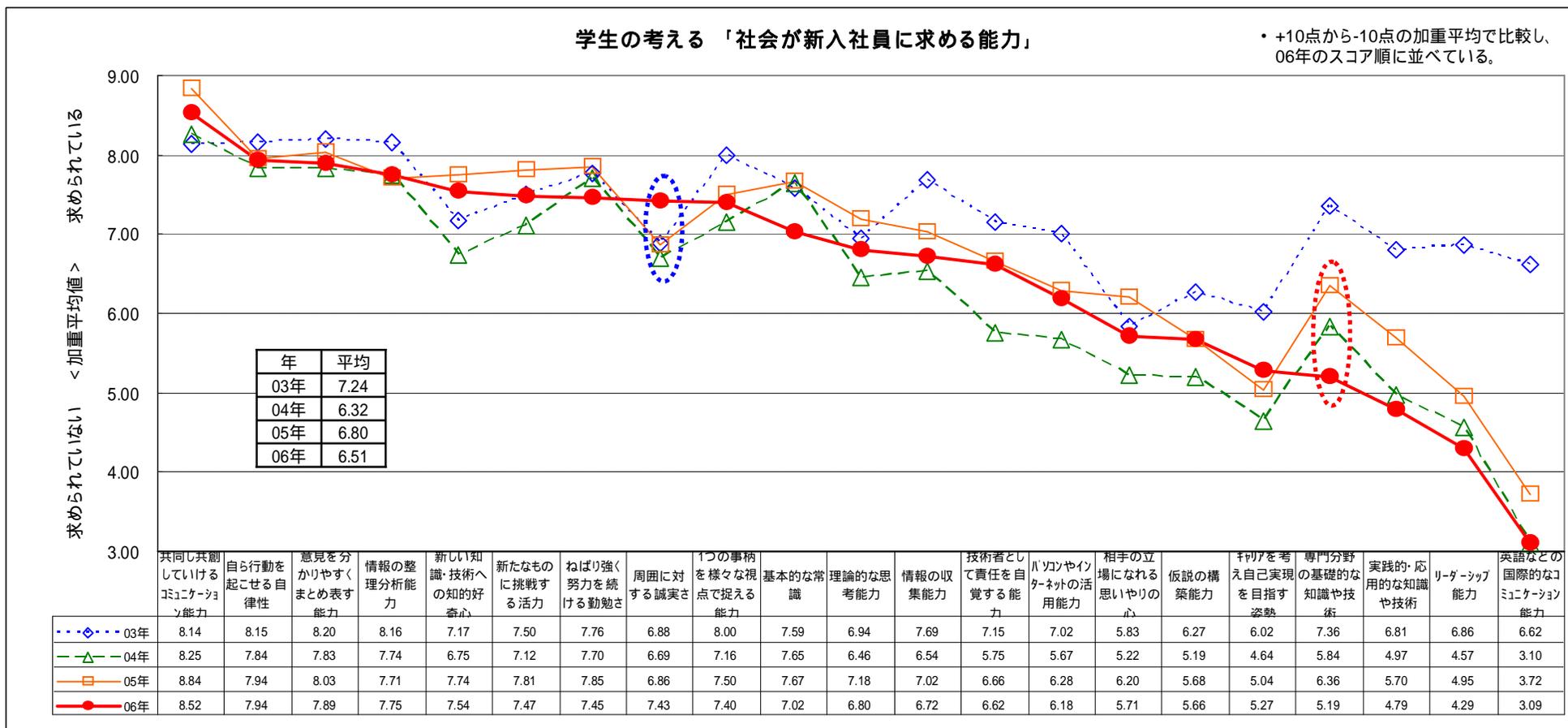
- 最も満足度が低下していたのは「自習室」であり、次いで「えふえむ・エヌ・ワン」「ネットワーク利用環境」「実験・実習環境」「普通教室」と続いていたが、勉強や授業に直結する施設の満足度が低下していた点が気になった。
- 満足度が向上していたのは6施設だけであったが、最も上がっていたのは「池の平セミナーハウス」であり、次いで「郵便局」「ブックストア」「寮・下宿相談室」などが続いていた。

学年別には「Cクラス」の満足度が高く、「2年次生」が低かった。学年別に差がついたのは「研究室、研究設備」「ネットワーク利用環境」などであった。

- 「2年次生」は05年からの満足度の低下も大きく、06年の満足度は全ての項目において最も満足度が低かった。
- 学年別で差がついたのは上記の通り「研究室、研究設備」「ネットワーク利用環境」であった。この差は学年によってニーズが変わっていくためと思われるが、いずれも「2年次生」が最も低かった。
- 「Cクラス」は全般的に満足度が高かったが、突出したものは見られなかった。また、05年からはほとんど変わっていなかった。

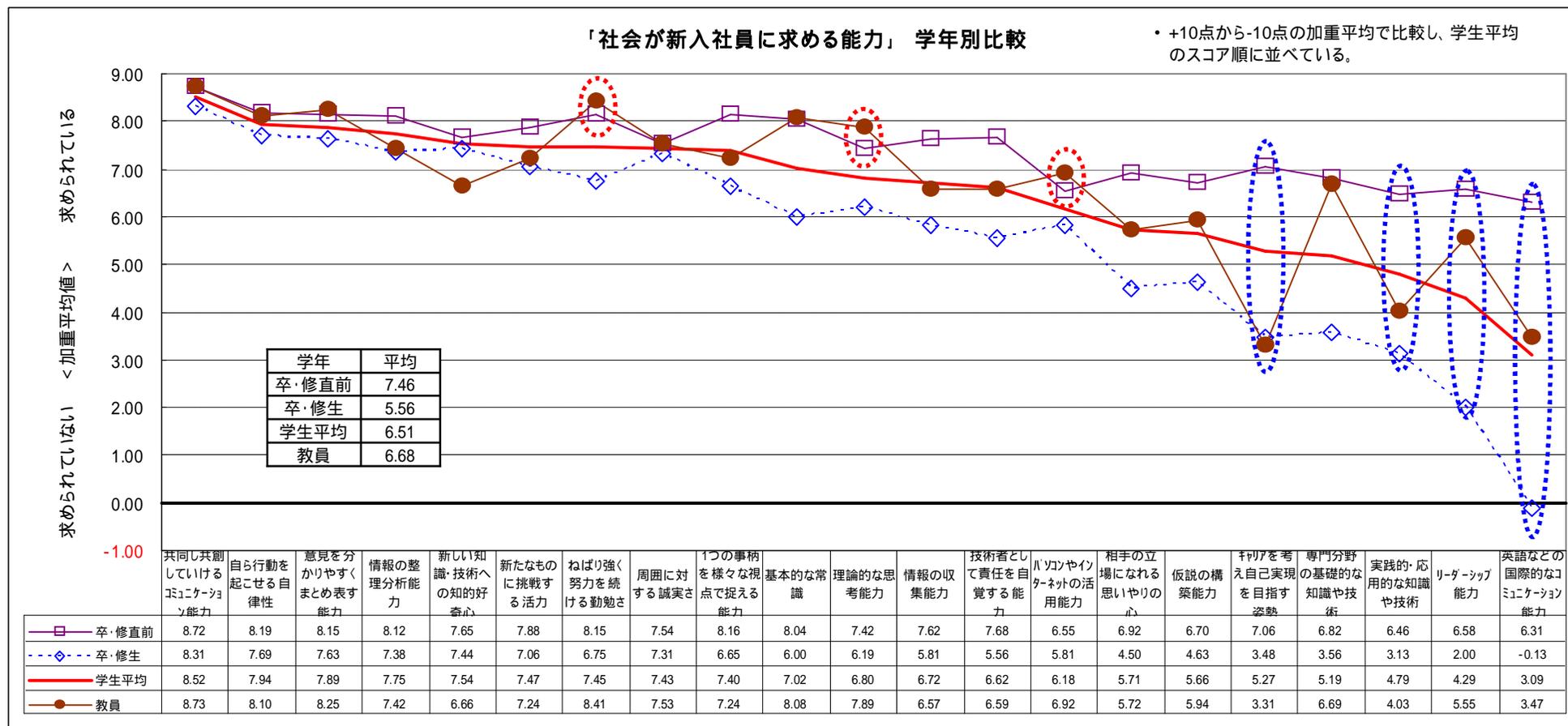
<7-1> 学生の考える「社会が新入社員に求める能力」

- 「社会が新入社員に求める能力」は「卒業・修了直前」「卒業・修了生」「教員」に聞いているが、ここでは「卒業・修了直前」「卒業・修了生」の結果を以前の結果と比較した。
- まず、06年の結果だけを見ると、「共同し共創していけるコミュニケーション能力」が最も重要だと考えており、次いで「自ら行動を起こせる自律性」「意見を分かりやすくまとめる能力」「情報の整理分析能力」などが挙げられていた。
- 逆にあまり求められていないと感じていたのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「リーダーシップ能力」「実践的・応用的な知識や技術」「専門分野の基礎的な知識や技術」「キャリアを考え自己実現を目指す姿勢」などであった。
- 以前と比較しても「共同し共創していけるコミュニケーション能力」が最も重要だと考えられているのは変わっておらず、上位のものはあまり変わっていなかった。
- 05年との比較で目立っていたのは「専門分野の基礎的な知識や技術」を重視する意見が減少していた点であった。また、「周囲に対する誠実さ」を重視する意見が増加していた点も目立っていた。



<7-2> 「社会が新入社員に求める能力」 学年別比較

- まず「卒業・修了直前」を見ると全ての項目が高いスコアで、社会人経験がないためあらゆる能力が全般的に求められると想像しているようであった。
- 一方、「卒業・修了生」は全体的に低めのスコアであり、社会人として求められるものが見えてきているようであった。「共同し共創していけるコミュニケーション能力」「自ら行動を起こせる自律性」といった能力が強く求められているという認識は「卒業・修了生」「教員」と共通であったが、下位に求めている能力に関しての差が大きかった。大きく食い違っていたのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、企業の現場では「英語」がそれほど求められていないようであった。そして、「リーダーシップ能力」「実践的・応用的な知識や技術」「専門分野の基礎的な知識や技術」「キャリアを考え自己実現を目指す姿勢」などもそれほど求められていないと感じていた。これらは社会人一般に関することではなく、「新入社員の段階では求められていない」というものであると思われる。
- 「卒業・修了直前」と「教員」との間にも差が見られた。「教員」のスコアは全般的に「卒業・修了直前」よりやや低めであったが、「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」「理論的な思考能力」「パソコンやインターネットの活用能力」は「卒業・修了直前」が考えるよりも重要だと考えていた。逆に「キャリアを考え自己実現を目指す姿勢」「実践的・応用的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」などの重要度は低めだと考えていた。



<7-6> 「人材の能力」のまとめ

学生は新入社員には「コミュニケーション能力」や「自律性」「意見をまとめる能力」が求められており、「英語」「リーダーシップ」などはあまり求められていないと考えていた。

- 「社会が新入社員に求める能力」として最も重視されると学生が考えていたのは「共同共創していけるコミュニケーション能力」で、次いで「自ら行動を起こせる自律性」「意見を分かりやすくまとめる能力」などが挙げられていた。
- 逆に重視されないと考えていたのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「リーダーシップ能力」「実践的・応用的な知識や技術」などであった。
- 05年と比較すると、「周囲に対する誠実さ」を重視する意見が増加していた点などいくつかの変化はあったが、それほど大きなものではなかった。

「卒業・修了直前」は新入社員には多くの能力が求められていると考えているが、「卒業・修了生」は自身の社会人経験によって、それほど多くを求められているわけではないと実感している。

- 「卒業・修了直前」は全ての能力が高いレベルで求められていると感じていたが、「卒業・修了生」は求められているものとそうでないものの切り分けができており、「英語」「リーダーシップ」「実践的・応用的な知識や技術」などは新入社員の段階ではそれほど必要とされていないと実感しているようであった。
- 3属性共に最も求められていると考えているのは「周囲と共同共創していけるコミュニケーション能力」だと考えており、コミュニケーションが重要だとする考えは一致していた。

学生自身が最も優れていると考えていたのは「知的好奇心」であり、次いで「誠実さ」「思いやりの心」「コミュニケーション能力」などに自信を持っていた。

- 学生が自信を持っていたのは「新しい知識・技術への知的好奇心」「周囲に対する誠実さ」「相手の立場になれる思いやりの心」「共同共創していけるコミュニケーション能力」などであり、周囲に対する姿勢が多く見られた。
- 逆に自信を持てていないのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「実践的・応用的な知識や技術」「リーダーシップ能力」などであった。

学生平均で昨年と比較すると自己評価は良くなっているものが多く、自信を増しているように思われる。特に「技術者としての責任自覚能力」「理論的な思考能力」のスコアが上がっていた。

- 05年との比較では「技術者として責任を自覚する能力」「理論的な思考能力」「1つの事柄を様々な視点で捉える能力」などをはじめとして、多くの項目で自己評価が上昇しており、自信を持つようになっているものと思われる。
- 05年より低下したのは「リーダーシップ能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」などであった。

「Cクラス」がほとんどの項目で最もスコアが高く、自信を持っているようであった。そして、「教員」は学生の「パソコンやインターネット活用能力」以外の評価は厳しいものであった。

- 「Cクラス」はほとんどの項目で最もスコアが高く、自分の能力に自信を持っていた。
- 「卒業・修了直前」は未知の世界を前にして自信を持てていないようであったが、就職した後の「卒業・修了生」の自己評価も低く、社会人になって自信を失っている様子が見える。
- 「教員」は学生の「理論的な思考能力」「1つの事柄を様々な視点で捉える能力」「仮説の構築能力」といった物事の考え方に課題を感じていた。

< 8-1 > 重回帰分析による集計

- 今回の調査では、新たな切り口として重回帰分析による満足度の構造の説明を行えるように調査項目を調整したため、試験的にその集計を行った。
- なお、ここで行った集計はテスト的に行ったものであり、今後その妥当性を確認していく必要があると言える。
- 重回帰分析の考え方は「従属変数(ここでは、KITの満足度)」に対して、「説明変数(ここでは、授業や学習支援、学生生活などの分野別満足度)」がどのように影響しているのかを見るものである。
- まず、一般的に「有意確率」が0.05より大きいものは、影響はあまり大きくないと見ることができるが、ここでは全て0.05以下であり、影響はあると考えることができる。
- そして、「標準化係数」の大きいものが従属変数(KITの満足度)に対しての影響が大きいと見ることができるが、ここでは「授業満足度」が0.277と最も大きく、次いで「学生生活満足度」という順であった。
- これらを見ると、KITに対する満足度に関して最も影響が大きいものは「授業の満足度」であり、次いで「学生生活の満足度」であると予測できる。従って、学生の満足度向上を目指すには、授業満足度の向上を目指すことが最も重要だと言える。

「KITの満足度」に影響の強いもの

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	.233	.077		3.016	.003
授業満足度	.308	.034	.277	8.953	.000
学習支援満足度	.156	.036	.137	4.362	.000
学生生活満足度	.240	.032	.219	7.569	.000
就職・進学支援満足度	8.939E-02	.031	.077	2.861	.004
サービスや機能満足度	.193	.035	.155	5.537	.000

従属変数:KITの満足度

値が大きいほど
影響が大きい

0.05より大きいものは
影響が小さい

・関係性の強そうなものを
赤色点線で囲んでいる

- 前項で「授業満足度」は「KITの満足度」に最も大きな影響を与えているという傾向が見られたが、その「授業満足度」にはどのような事柄が影響を与えているのかを確認した。
- まず「有意確率」を見ると、「新しい分野、テーマの勉強ができる」「少人数・ゼミ形式の授業が受けられる」の2項目は「授業満足度」に対しての影響が弱いようであった。
- 「標準化係数」は上位3つを抽出したが、最も影響が強いのは「分かりやすい授業が受けられる」であり、影響の強さは他と比較して強めであった。
- 次いで「授業を通じて勉学意欲、向学心がわく」「好きな・興味のもてる勉強ができる」の影響がやや強めであった。
- 「学習支援の満足度」に関しては「有意確率」で外すべき項目は見られなかった。そして、「標準化係数」を見ると「学内講演会の満足度が学習支援の満足度と強い関係がある」という傾向が見られた。
- そして、「学習支援計画書」「修学相談、教務課のアドバイス」の影響も大きかった。この「学習支援計画書」「修学相談、教務課のアドバイス」が学習支援と強い関係にあるのは納得できるが、「学内講演会」は解釈しにくいいため、その要因を考えた。
- 次項以降の「雰囲気・学生生活」「就職・進学支援」「サービスや機能」に関して、最も後ろの設問で「標準化係数」が高い傾向が見られたが、これらの設問の後で「各分野の総合的な満足度」を聞いているため、「直前の設問に対する回答の流れのまま同じように総合満足度に回答している」という関係性があるのではないかと想像できる。これらに関しては今後の課題とし、必要であれば調査票の見直しも検討する。

「授業の満足度」に影響の強いもの

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	-.127	.043		-2.968	.003
分かりやすい授業が受けられる	.261	.014	.260	18.230	.000
新しい分野、テーマの勉強ができる	3.779E-03	.013	.004	.282	.778
好きな・興味のもてる勉強ができる	.111	.014	.119	8.089	.000
授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	.163	.015	.170	11.144	.000
AV機器等を用いた授業が受けられる	2.552E-02	.012	.027	2.169	.030
少人数・ゼミ形式の授業が受けられる	1.098E-02	.012	.012	.923	.356
専門的な知識が身につく	8.649E-02	.014	.084	6.021	.000
実験・実習のテーマや内容が豊富である	6.504E-02	.013	.071	5.190	.000
学問全体のどこを学んでいるか分かる	6.242E-02	.014	.063	4.396	.000
実社会でどう役立つのかが分かる	6.757E-02	.014	.070	4.993	.000
授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める	9.871E-02	.011	.109	8.636	.000
自己点検授業は役立っている	8.855E-02	.011	.100	8.193	.000

従属変数: 授業の満足度

- 関係性の強そうなものを赤色点線で囲んでいる
- 有意確率は関係性の低そうなものを青色で着色している。

「学習支援の満足度」に影響の強いもの

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	.200	.040		5.022	.000
学習支援計画書の内容は役立つ	.163	.013	.177	12.560	.000
キャンパスノートは役立っている	5.796E-02	.013	.065	4.392	.000
QPAポイントは役立っている	.117	.012	.134	9.788	.000
オフィスアワーは役立っている	9.408E-02	.013	.107	7.258	.000
修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	8.025E-02	.014	.091	5.715	.000
修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	.137	.015	.150	9.206	.000
海外研修・留学は役立っている	3.446E-02	.012	.041	2.916	.004
学内講演会は役立っている	.219	.012	.256	17.576	.000

従属変数: 学習支援の満足度

- 関係性の強そうなものを赤色点線で囲んでいる。

- 「授業の満足度」に次いで「KITの満足度」に影響が強い傾向が見られた「学生生活の満足度」に関して確認した。
- まず、「有意確率」で0.05以上のものは見られなかった。
- 「標準化係数」では前項でも見たように最後の設問の「学生主体の活動」のスコアが高かった。これは実際に「学生生活の満足度」に大きな影響がありそうであった。このように重回帰分析で傾向を探っていくためにはもう少し綿密な調査設計が必要と言える。
- 上記に次いで「校風があっている」「たくさんの友人ができる」「授業の取組に熱心な教員が多い」ということも学生生活の満足度に関係が強いようであった。
- 「就職・進学支援の満足度」に最も影響が強いのは「進路開発センターHP、企業情報DB」であった。これも最後の設問であるため疑問は残るが、実際に「就職・進学支援」の満足度に関係が強いものと思われる。
- 次いで「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」「進路アドバイザー教員との進路相談」のスコアが高かった。

「学生生活の満足度」に影響の強いもの

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	-.182	.044		-4.125	.000
まじめに勉強できる雰囲気がある	5.264E-02	.013	.053	4.009	.000
個性を伸ばせる雰囲気がある	5.011E-02	.014	.052	3.643	.000
校風が自分にあっている	.171	.014	.177	12.216	.000
たくさんの友人ができる	9.528E-02	.013	.092	7.352	.000
尊敬できる先輩に出会える	3.522E-02	.012	.041	2.986	.003
授業の取組に熱心な教員が多い	8.279E-02	.016	.085	5.167	.000
人間的に尊敬できる教員が多い	3.623E-02	.018	.038	2.041	.041
学生を意欲的にさせる教員が多い	3.710E-02	.018	.037	2.059	.040
相談相手になってくれる教員が多い	3.794E-02	.016	.039	2.360	.018
研究の取組に熱心な教員が多い	4.305E-02	.015	.044	2.903	.004
業務に熱心な職員が多い	4.216E-02	.016	.042	2.656	.008
いろいろな相談をしやすい職員が多い	4.771E-02	.017	.048	2.836	.005
手続きを迅速に処理する職員が多い	6.252E-02	.014	.065	4.465	.000
学生主体の活動に満足している	.246	.011	.287	21.461	.000

従属変数: 学生生活の満足度

- 関係性の強そうなものを赤色点線で囲んでおり、それに次いで似ているスコアのことを青色点線で囲んでいる。

「就職・進学支援の満足度」に影響の強いもの

	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	-.182	.075		-2.416	.016
工学設計・修士研究の指導教員と進路相談	6.447E-02	.029	.066	2.215	.027
進路アドバイザー教員との進路相談	.144	.031	.156	4.728	.000
進路開発センタースタッフとの進路相談	4.881E-02	.031	.054	1.569	.117
就職・進学に関する講演会	4.511E-02	.033	.050	1.354	.176
模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス	.143	.032	.158	4.461	.000
合同会社説明会 on KIT	.115	.028	.133	4.058	.000
就職活動支援無料バス、就職プラザ	5.727E-02	.023	.074	2.512	.012
就職ノート	.108	.030	.122	3.580	.000
資料室、就職資料の掲示	.119	.035	.127	3.458	.001
進路開発センターHP、企業情報DB	.204	.032	.226	6.327	.000

従属変数: 就職・進学支援の満足度

- 関係性の強そうなものを赤色点線で囲んでいる
- 有意確率は関係性の低そうなものを青色で着色している。

- 「サービスや機能の満足度」に関して「有意確率」を見ると、多くの項目が0.05以上となっており、相関があると言えそうなものは「研究室、研究設備」「ライブラリーセンター」「池の平セミナーハウス」「学内イントラネット」「トイレや洗面所」「大学内の誘導表示」の6項目だけであった。
- これらの中で「標準化係数」が最も大きかったのは「大学内の誘導表示」であったが、これも最後の設問であり、内容から見て「大学内の誘導表示が充実していると感じている学生は大学全体のサービス・機能に満足している」という傾向があるかどうかを判断するのは難しいと言える。
- それに次いで「学内イントラネット」があり、これは大学のサービス満足度に関係がありそうであった。
- そして「池の平セミナーハウス」「トイレや洗面所」のスコアが高かったが、「池の平セミナーハウス」は「卒業・修了直前」のみが使う施設であり、「トイレや洗面所」は大学のサービスや機能として学生がどのように見ているのか分からない点もある。
- このように、「サービスや機能」の満足度を左右している項目は非常に傾向を読みづらく、明確な傾向として断言できるものではなかった。これらに関しては今後の調査項目の見直しや学生に対するインタビューなどで明らかにしていく必要があると言える

「サービスや機能の満足度」に影響の強いもの

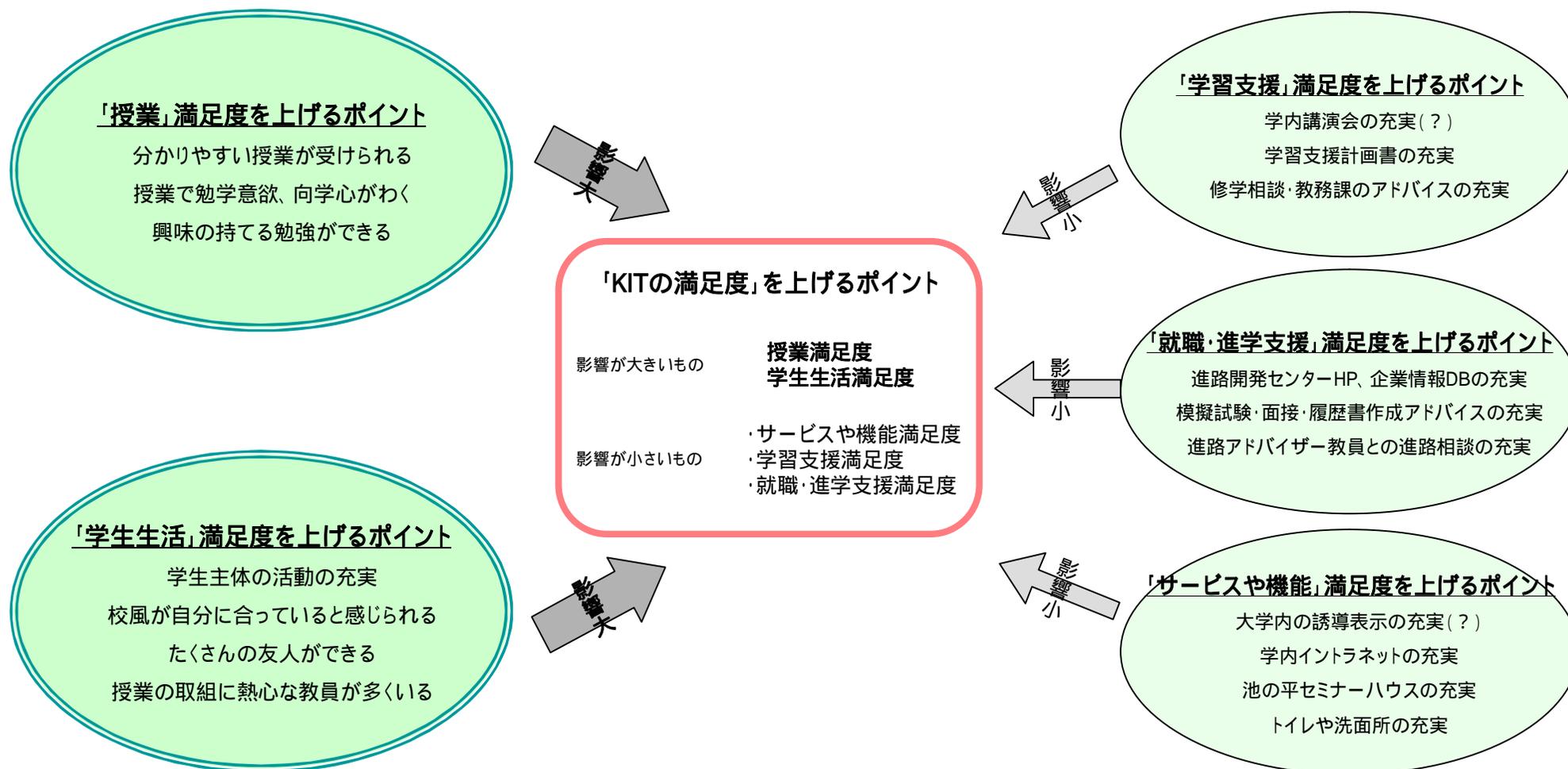
	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	-.246	.128		-1.924	.056
マルチメディア考房	-3.415E-02	.041	-.041	-.830	.407
学習支援デスク	-4.954E-02	.047	-.061	-1.047	.296
KITライティングセンター	5.310E-02	.048	.067	1.105	.270
ポピュラーミュージックコレクション	-4.213E-02	.038	-.053	-1.106	.270
工学基礎教育センター	-6.649E-03	.042	-.008	-.157	.875
基礎英語教育センター、ロコス	9.148E-03	.046	.011	.199	.843
夢考房	1.693E-02	.036	.022	.467	.641
自己開発センター	-3.901E-02	.042	-.046	-.935	.351
パソコンセンター	6.802E-02	.039	.087	1.761	.080
普通教室	-1.215E-02	.051	-.012	-.238	.812
実験・実習環境	3.487E-02	.053	.035	.653	.514
研究室、研究設備	.119	.041	.140	2.891	.004
ライブラリーセンター	.106	.051	.109	2.075	.039
自習室	3.017E-02	.038	.039	.796	.427
穴水湾自然学苑	-3.304E-02	.037	-.043	-.898	.370
池の平セミナーハウス	.140	.034	.184	4.144	.000
スポーツ施設	3.911E-02	.039	.045	.994	.321
コンピュータ利用環境	-2.763E-02	.068	-.031	-.405	.686
ネットワーク利用環境	6.867E-02	.064	.082	1.076	.283
大学の公式ホームページ	-1.894E-03	.068	-.002	-.028	.978
学内イントラネット	.194	.070	.205	2.761	.006
えふえむ・エヌ・ワン	7.563E-03	.044	.009	.171	.864
寮・下宿相談室	-5.087E-02	.039	-.061	-1.298	.196
診療所	2.588E-02	.043	.029	.602	.548
食堂	3.068E-02	.057	.034	.538	.591
購買	-1.334E-02	.075	-.013	-.177	.860
ブックストアPEPA	.128	.065	.122	1.963	.051
KITサービスセンター	8.740E-02	.045	.097	1.927	.055
郵便局	-2.390E-02	.051	-.024	-.473	.637
トイレや洗面所	.144	.040	.172	3.647	.000
大学内の誘導表示	.176	.041	.214	4.309	.000

従属変数：サービスや機能の満足度

- 有意確率は関係性の強そうなものを赤色で着色している。
- 関係性の強そうなものを赤色点線で囲んでおり、それに次いで似ているスコアのもの青色点線で囲んでいる。

< 8-2 > 重回帰分析のまとめ

今回の調査では新たな切り口として「重回帰分析」による分析を行った。質問の順番が結果に影響を与えている可能性があるが、参考として分析した。



- 調査票の見直し、より詳細な分析や検証も必要であるが、今回の重回帰分析では下記のような構造が見えてきた。
- 「授業」と「学生生活」の満足度が、「KITの満足度」に大きな影響を与えているようであった。従って「授業」と「学生生活」の満足度が向上すれば「KITの満足度」の向上も望めるものと思われる。
- 影響の最も大きい「授業」の満足度向上のためには「興味を持って分かりやすく、受講していると勉学意欲・向学心がわくような授業」が必要と言えそうであった。
- また、「学生生活」の満足度向上のためには「たくさんの友人ができ、サークルや工大祭などの学生中心の活動が充実している」と感じられる学生生活が送れるような環境であり、「授業の取組に熱心な教員が多い」ということが重要であった。そして、コントロールは難しいが入学時点で校風を踏まえて入学できるような事前の情報提供も必要と言える。

< 9-4 > 学年による意識の変化

今回の調査から学年による状況の違いをまとめると下記のようにまとめることができる。ただし、これは最も割合が多かった傾向から見た典型的な学生のモデルであり、全ての学生に当てはまるわけではない。また、ここでの考察は同一の学生の時系列変化ではなく06年の結果を学年別に比較してモデル化したものである。

	現状	予想される状況	今後のポイント
新入生	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大学に非常に大きな期待を抱いている。 ◆ 入学後は勉強、勉強以外に積極的に取り組み、目標を持って過ごそうとしている。 ◆ 全てのものが初体験で新鮮に映っているが、大学や学生生活の全体像をつかめていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 期待は大きい、具体的な学生生活の流れが見えなくて不安が大きいと思われる。 ◆ 社会に出るのは4年後のことなのでそれほど大きな不安ではないが、自分の将来像が見えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「新入生」自身の意識は高いが、「1～2年次生」での意識の低下を見ると、早い段階での意識改革が重要になると思われる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の全体像や流れ、大学の概要を示して安心感を与える必要がある。 2. 本人の将来設計と自主的な行動の重要性を認識させて、目的意識を持たせる。 3. 大学は学生を誘導するものではなく、自主的な行動をサポートするものであるという認識を持たせる。

1年間で急激に勉学意欲・積極性が低下

1年次生	<ul style="list-style-type: none"> ◆ わずかに1年間の学生生活であるが、満足度は非常に低下しており、本人の取り組み姿勢も非常に悪くなっている。 ◆ 授業の満足度とKITの総合満足度はマイナスとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 状況としては下記のようなケースが考えられる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学時から目標を持って過ごすという姿勢になっていないため、流されるままになっている。 2. カリキュラム、学生生活などに関して、新入生の時に抱いていたものから見て大きな期待はずれがあるため、積極的になれない。 3. 授業や課題が忙しくて時間的な余裕がなく、それが不満に直結している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「1～2年次生」にかけての意識低下は、最も大きな課題だと思われ、最優先で取り組むべきだと言える。 ◆ 現段階では、左記のような仮説しか考えられないが、より詳細な情報収集、インタビュー調査などを経て、実態を把握する必要がある。 ◆ 上記のような情報収集を踏まえて対策を考える。その際には「新入生」の意識改革なども合わせて総合的に考えるものとする。
------	--	--	--

更に勉学意欲・積極性が低下

2年次生	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「1年次生」よりも更に状況は悪化しており、全学年の中で最も満足度が低く、学生生活が充実していないという意見も多く見られる。 ◆ 「勉強以外」では、わずかに「1年次生」よりも積極的であるが、その他は非常に消極的であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「新入生」から「1年次生」にかけての満足度の低下がそのまま続いており、更に悪化している。 ◆ ただし、大学に慣れたためか、「勉強以外」の取組に少し積極的になれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「1年次生」から継続して状況が悪化しているため、「1年次生～2年次生」として上記と一緒に捉える方が良いと思われる。
------	--	--	---

「Cクラス」に向けて急激に改善される

	現状	予想される状況	今後のポイント
Cクラス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Cクラス」で一気に満足度が向上しており、ほとんどの項目で在学生で最も高い満足度になっている。 ◆ 「Cクラス」では勉強、勉強以外を含めて全ての面で好循環が起きていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 急に好循環に入っているが、状況としては下記のようなケースが考えられる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 興味を持てる専門科目が本格的になってきたためか、授業への興味が増すことから学生生活全体が充実している。 2. 勉強以外の活動(サークルや工大祭)などでも中心的立場となって、充実感を感じている。 3. 就職・進学活動も開始され、自分自身の将来像が見えてきている。ただし、就職・進学に関する情報不足による不満もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ この段階での満足度向上がどのような仕組みで起こっているのかを解明することで、「1～2年次生」の意識低下を防ぐヒントが得られる可能性がある。 ◆ 現段階では、左記のような仮説が考えられるが、実態はより複雑だと思われ、今後、詳細な情報収集で仕組みの解明を進める必要がある。 ◆ 「Cクラス」と同様に、学科では「建築・土木系」で満足度が高い傾向が見られたが、ここにもヒントがあるのではないと思われる。

勉学意欲・積極性が高いまま、最終学年になる

卒業・修了直前	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「KITの総合満足度」「就職・進学支援の満足度」は「Cクラス」より高くなっており、その他の分野の満足度も低くはなく、充実した学生生活を送っている。 ◆ 自分自身の取組は「Cクラス」とほぼ同様か、やや積極的になっている面もあり、卒業・修了に向けて前向きに活動しているようであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Cクラス」よりやや満足度が下がる原因は分からないが、卒業・修了を控えて充実した状況が続いているものと思われる。 ◆ 以前のインタビューでも聞かれたように、企業の採用担当者、他大学の学生との接点が増加して、自分のレベルアップを感じているものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 多くの学生が達成感を感じているものと思われるが、そこまでの経緯を詳しく聞き取り、情報収集を行う。 ◆ この成功体験(失敗・反省も含む)をケーススタディとして低学年に伝えることで、低学年をより積極的にさせることが可能になると思われる。 ◆ また、4年間の経緯を聞くことで、学生にどのような目標を持たせ、どのように目標管理を行うかに関するヒントも得られるものと思われる。
---------	--	---	---

卒業後は在学中の苦しかった思い出も良いものとして残るが、もっと積極的に勉強すべきだったという反省もある

卒業・修了生	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 好意的な卒業生や修了生が回答しているという可能性もあるが、非常に好意的な意見が多かった。 ◆ 「KITの満足度」「学生生活の満足度」「就職・進学支援の満足度」は在学生よりも高く、「KITが好き」という意見も非常に多かった。 ◆ ただし、「予習・復習を行っていた」は少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学生時代に苦勞したことは思い出となり、結果的には良い学生生活を送れたと満足しているものと思われる。 ◆ ただし、もう少し勉強に真剣に取り組むべきだったと少し反省している姿も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 回答している「卒業・修了生」は非常に好意的であるが、その他の「卒業・修了生」がどのような意識を持っているのかは確認しておく必要があると思われる。 ◆ 「卒業・修了生」のネットワークは有効な広報媒体になる可能性を持っているが、大学としてそのネットワークをどのように位置付けるのかを検討し、施策を検討するというステップを踏む必要がある。
--------	---	--	---

< 10-1 > 新入生のプロフィール

- 06年の新入生は05年より137人増加して1747人であった。03年からの経緯を見ると03年:724人、04年:1672人、05年:1610人、06年1747人であり、06年は今までで最も多い回答者数であった。
- 学科の割合は05年とそれほど大きな違いはなく、最も多かったのは「情報工学科」であり、04年から継続的に回答者数が増加していた。それに次ぐ「機械工学科」は04年から継続的に減少していた。
- 入試の種類として最も多かったのは「一般試験(A)」で全体のほぼ半数を占めていた。
- 出身地では「東日本」が20.9%から24.1%へと増加しており、中でも目立ったのは「甲信越」で、「新潟県」(6.7% 8.2%)、「長野県」(4.4% 6.0%)が増加していた。
- 逆に減少が目立ったのは「北陸」(43.2% 39.6%)であり、目立っていたのは「富山県」(11.9% 9.7%)、「石川県」(26.3% 24.4%)であり、地元の「石川県」は人数としては最も多いものの、減少も多いという結果となっていた。
- 出身高校の課程は05年との比較になるが、「専門学科」が減少しており、「理系(普通科)」の増加が目立っていた。
- 現役か浪人かに関しては、「現役入学」が91.2%から92.3%とわずかに増加していた。

03年の学科割合

	03年	
	実数	%
機械工学科	69	9.5%
機械システム工学科	79	10.9%
物質システム工学科	20	2.8%
先端材料工学科	30	4.1%
電気工学科	30	4.1%
電子工学科	35	4.8%
情報工学科	69	9.5%
人間情報工学科	37	5.1%
経営情報工学科	31	4.3%
環境システム工学科	61	8.4%
土木工学科	64	8.8%
建築学科	111	15.3%
居住環境工学科	84	11.6%
不明	4	0.6%
総計	724	100.0%

04年～06年の学科割合

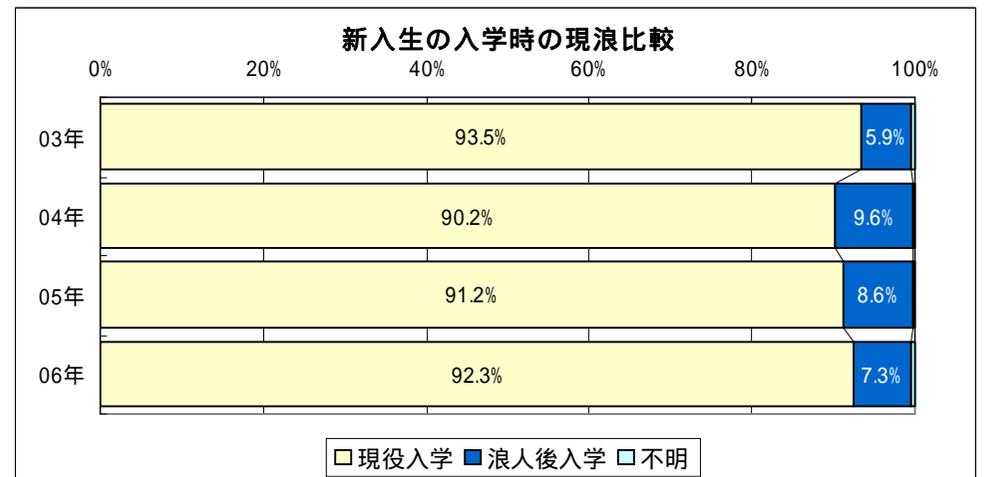
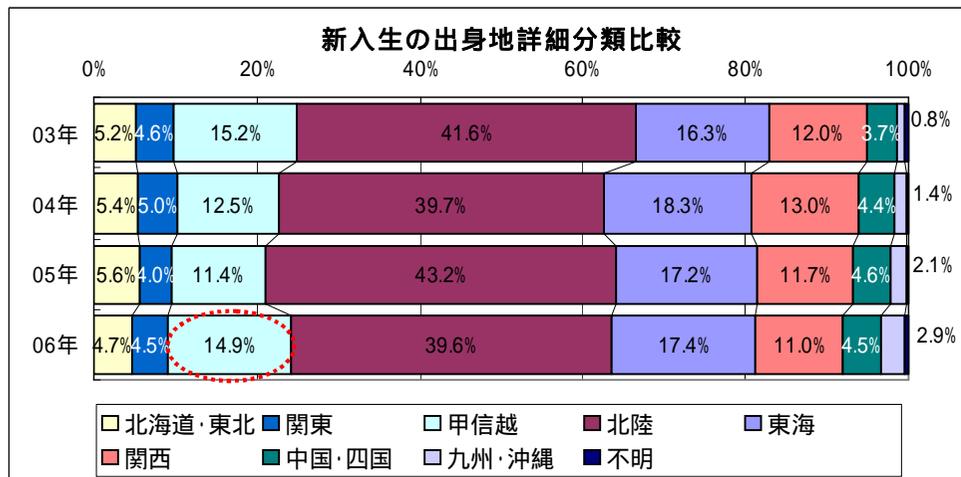
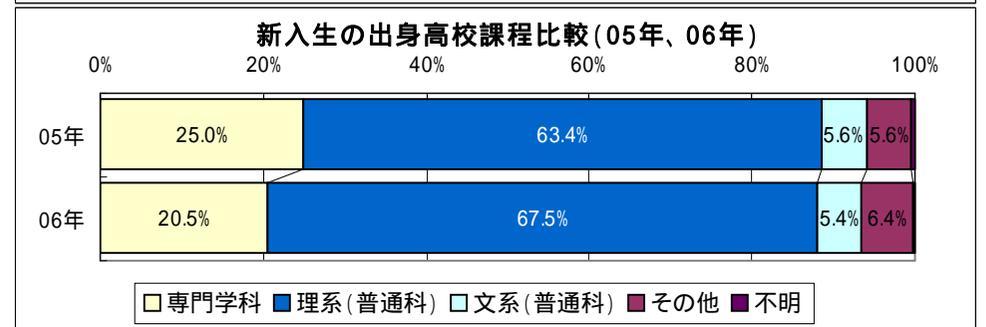
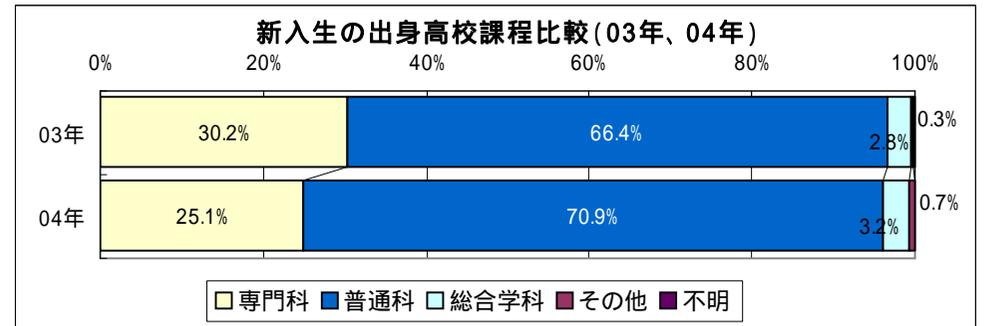
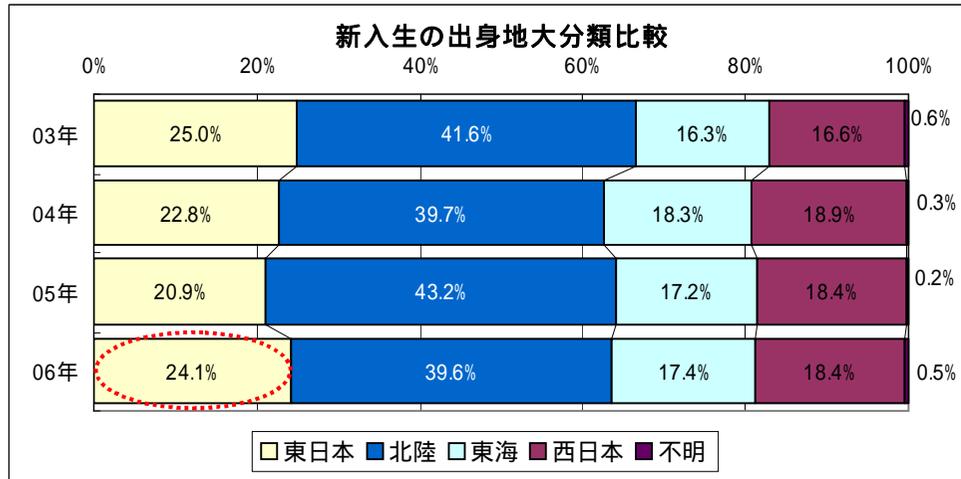
	04年		05年		06年	
	実数	%	実数	%	実数	%
機械工学科	167	10.0%	159	9.9%	163	9.3%
ロボティクス学科	107	6.4%	114	7.1%	131	7.5%
航空システム工学科	48	2.9%	56	3.5%	55	3.1%
電気電子工学科	136	8.1%	118	7.3%	136	7.8%
情報通信工学科	97	5.8%	64	4.0%	105	6.0%
情報工学科	232	13.9%	231	14.3%	255	14.6%
バイオ化学科	97	5.8%	99	6.1%	114	6.5%
環境化学科	64	3.8%	62	3.9%	69	3.9%
環境土木工学科	132	7.9%	116	7.2%	119	6.8%
建築学科	131	7.8%	152	9.4%	144	8.2%
建築都市デザイン学科	86	5.1%	80	5.0%	103	5.9%
メディア情報学科	114	6.8%	130	8.1%	126	7.2%
生命情報学科	83	5.0%	76	4.7%	70	4.0%
心理情報学科	71	4.2%	71	4.4%	75	4.3%
情報マネジメント学科	65	3.9%	70	4.3%	63	3.6%
不明	42	2.5%	12	0.7%	19	1.1%
総計	1672	100.0%	1610	100.0%	1747	100.0%

入試の種類

	03年	04年	05年	06年
AO入学	6.6%	14.4%	14.2%	10.8%
専門(工業)高校特別選抜	11.7%	10.5%	10.6%	8.4%
推薦試験	34.8%	24.1%	26.8%	25.2%
センター試験利用	7.3%	6.6%	6.2%	5.7%
一般試験A(04年以降は1種)	36.5%	44.1%	42.1%	49.4%
一般試験B	2.5%	-	-	-
不明	0.6%	0.2%	0.2%	0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年によって試験の構成は異なっている。

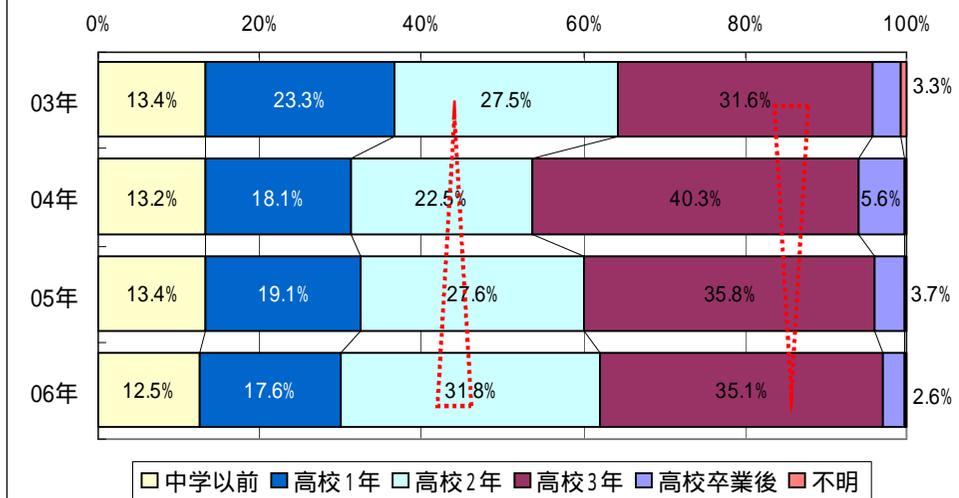
- ・「専門高校特別選抜」は04年までは「工業高校特別選抜」という呼称であった。
- ・一般試験は03年にはAとBの2種があったが、04年以降は一種のみとなった。



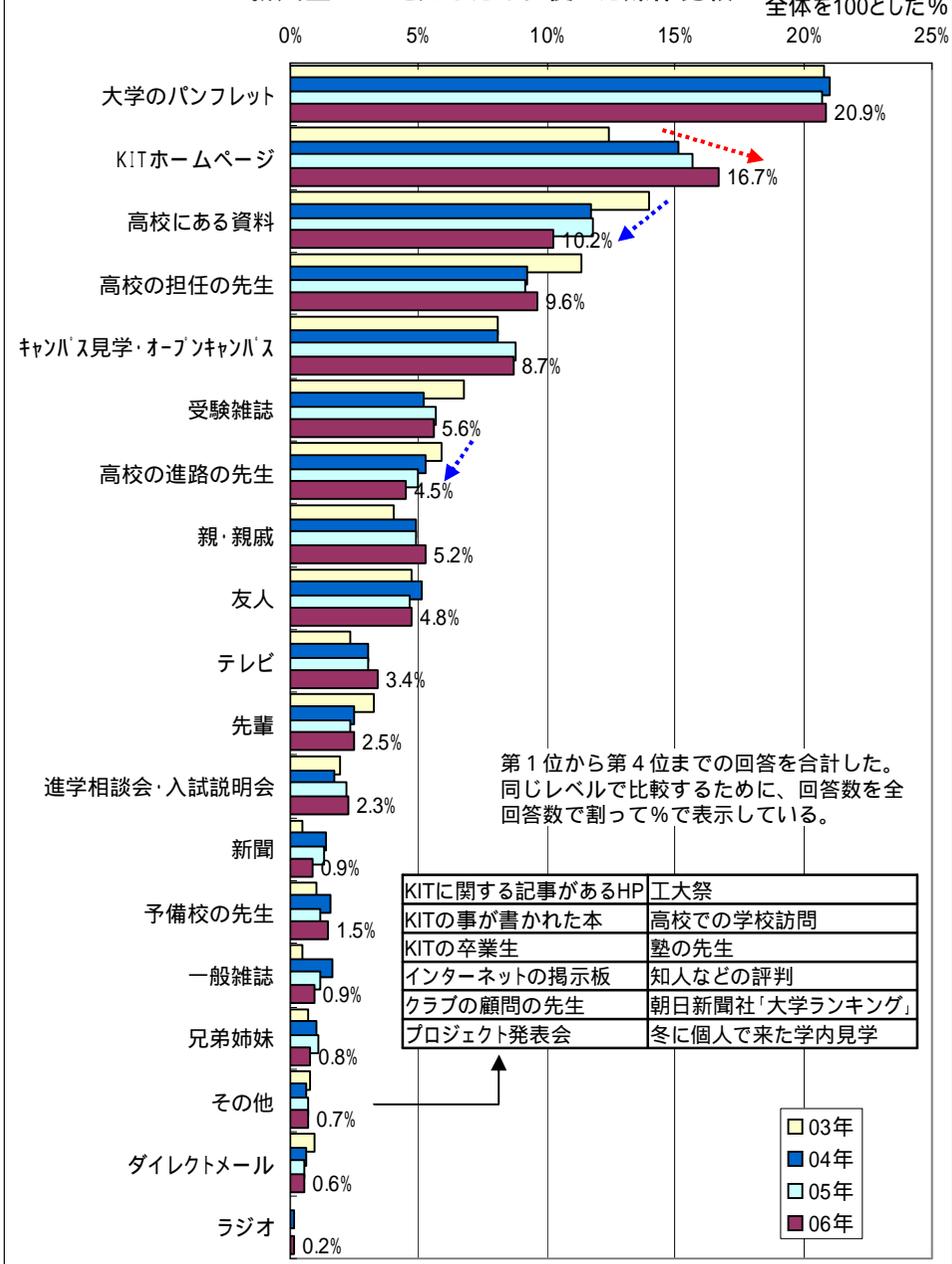
< 10-3 > KITの認知経路などに関して

- 「KITを知った時期」で「中学以前」は06年にはわずかに減少していたがほぼ変化はなく、「高校1年」も減少したもののわずかな変化であった。
- そして、「高校2年」は04年より継続的に増加する傾向にあり、「高校3年」は継続的に減少する傾向にあった。
- 「KITを知った時期」は高校3年から高校2年へと早まる傾向にあるが、これが学生全体の動きなのか、早い時期から目的意識を持ってKITを目指す学生の増加なのかといった点を明らかにする必要がある。
- 「KITを知るために使った媒体」では、「KITホームページ」の割合が急激に増加し、「高校にある資料」「高校の進路の先生」が減少傾向にあり、Webを使って自ら情報収集している学生の姿がうかがえた。
- 次項の「KIT入学を相談した人」としては「親・親戚」が半数を占めており、割合としては前年までとほとんど変動はなかった。
- また、「学科を選択した理由」もそれほど大きな変動はなかったが、「学科で学ぶ内容」「将来性」は重視されているものの、その重視度はわずかに低下しており、「就職内容」「研究内容」「取得できる資格」の重視度が上昇していた。

新入生 KITを知った時期比較



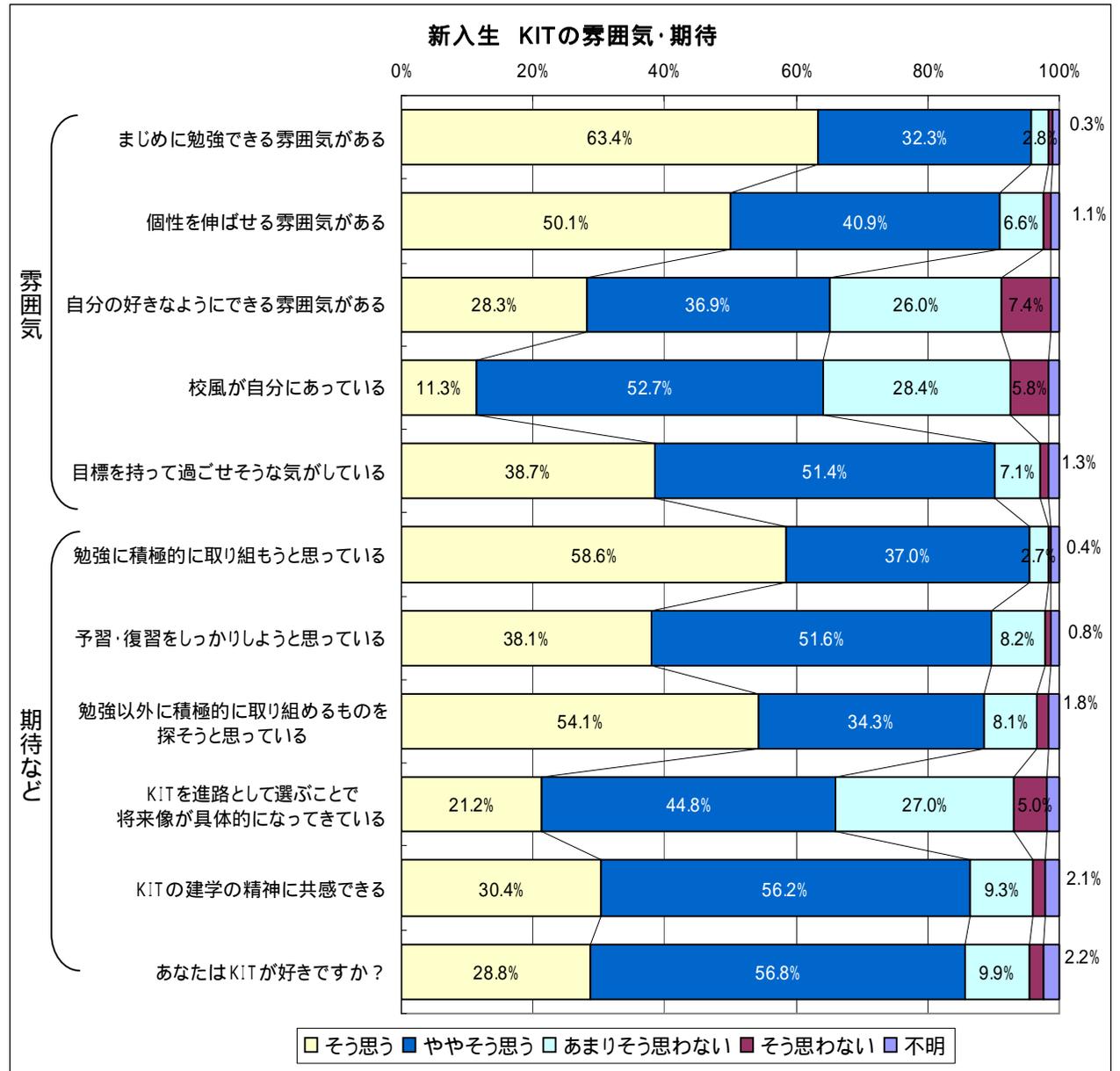
新入生 KITを知るために使った媒体比較



● ここでは新入生だけで「KITの雰囲気・期待など」についての分析を行った。なお、前年との比較は全体分析で行っている。

- 「雰囲気」に関しては下記のようにまとめられる。
 - ・ 「まじめに勉強できる雰囲気」「個性を伸ばせる雰囲気」があると強く感じている。そして、「目標を持って過ごせそうな気がしている」と感じており、期待の高さがうかがえる。
 - ・ また、「自分の好きなようにできる雰囲気がある」と感じている学生は約6割にとどまっており、不自由に感じている学生もいるようであった。
 - ・ 「校風が自分に合っている」に関しては、「そう思う」が11.3%にとどまっており、「何となく合っている」と感じている学生が多い状況だと思われる。

- 「期待など」は下記のようにまとめられる。
 - ・ 「勉強に積極的に取り組もうと思っている」「予習・復習をしっかりとしようと思っている」「勉強以外に積極的に取り組もうと思っている」に関しては、約9割がそう思うと感じており、勉強だけに限らず積極的に取り組もうとしている姿がうかがえる。
 - ・ 「KITの建学の精神に共感できる」という意見は86.6%、「KITが好き」という意見も85.6%であり、KITに好感を持っていることが確認できた。
 - ・ ただし、「KITを進路として選ぶことで将来像が具体的にになってきている」と思っている学生はやや少なめであり、将来像を示すことで学生の満足度は更に向上するものと思われる。



< 10-5 > 新入生アンケートのまとめ

出身地では「新潟県」「長野県」の出身者が増加しており、高校の課程では「理系(普通科)」が増加していた。

- 回答者数は05年より137人増加して1747人となり、過去最高となっていた。
- 出身地では「新潟県」「長野県」という隣接した県の出身者の割合が増加しており、「富山県」「石川県」などの地元出身者が減少していた。
- 高校の課程では「専門学科」の割合が減少し、「理系(普通科)」が増加して67.5%になっていた。
- 入試の種類では「一般試験」が増加し、「AO入学」「専門高校特別選抜」をはじめとして、「一般試験」以外は全て減少していた。

併願者が最も多かったのは昨年同様「福井工業大学」で、上位の大学の顔ぶれは05年とほとんど変わらなかった。

- 06年のトップは03年、05年と同様に「福井工業大学」で、105人が受験していた。04年のトップは「近畿大学」であった。
- 06年の2位は「近畿大学」、3位は「富山大学」であり、トップ10の顔ぶれは05年とほぼ同じで、「東海大学」「関西大学」が外れて「愛知工業大学」が加わっていた。
- 25位くらいまでを見ると、工業系の大学が増加している傾向が見られた。
- 全般的に併願大学の合格率は上がっており、新入生の学力の向上という理由も考えられるが、合格判定レベルの低下の可能性も考えられる。

KITを認知した時期は「高校2年生」が増加する傾向にあり、使った媒体としては「HP」が非常に増加している。

- KITの認知時期として「中学以前」「高校1年」は04年からあまり変動がないが、「高校2年」が増加して、それまで最も多かった「高校3年」に迫りつつある。
- この早期化は、学生全体のことか、早い時期から目的意識を持ってKITを目指す学生の増加なのか不明であるが、今後、明らかにすべき点だと言える。
- KITを知るために最も使われている媒体は「大学のパンフレット」であるが、03年より「HP」の割合が継続的に増加し、パンフレットとの差がどんどん縮まっている。また、「高校にある資料」「進路の先生」は減少している。

「大学のパンフレット」はほぼ全員が役立ったと感じているが、「HP」は2割が役立たなかったと答え、改善の余地がある。

- 「大学のパンフレット」は95.2%が役に立ったと感じており、04年と同様に利用者に高い満足感が得られている。
- 「HP」が役に立ったと感じているのは78.8%と決して少なくはないが、利用者割合がパンフレットに迫ろうとしていることを考えると、継続的に満足度を上げる努力を行うべきだと言える。
- 「キャンパス見学・オープンキャンパス」は満足度が高い層と低い層に分かれ、参加者によって評価が分かれる結果となった。

約9割は入学前にKITに良いイメージを持ち、期待は高いが、KITを通しての自分の将来像が見えていない学生がやや多かった。

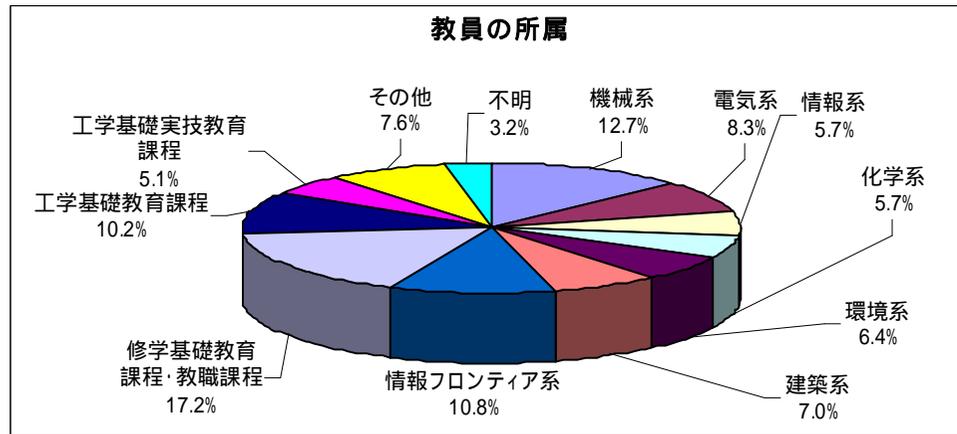
- 標記のように9割は良いイメージを持っていたが、1割はあまり良いイメージを持っておらず、これがどこからくるものなのかしっかり把握しておく必要がある。
- 9割はKITが好きで勉強、勉強以外にも積極的に取り組もうとしており、KITに大きな期待を持って入学してきていることが分かった。
- しかし、「KITを選ぶことで将来像が具体的になった」という学生は66.0%ほどで、この不安を解消することも重要だと言える。また、「自由にできる雰囲気を感じていない」「校風があっていない」と感じる学生も約3割見られた。

入試の種類によってKITに対するイメージは大きく異なり、AOや専門高校特別選抜の学生は良いイメージを持っている。

- 「AO」が最もKITに対して良いイメージを持ち、次いで「専門高校特別」「推薦」「一般」「センター利用」という順にイメージが低下していた。
- KITを知った時期は「AO」「専門高校特別」「推薦」が早く、「AO」と「専門高校特別」は「学ぶ内容」を非常に重視し、「将来性」「イメージ」「就職内容」の重視度は低かった。そして、「一般」は「就職内容」「偏差値」を重視していた。
- 学部の比較では、「工学部」は将来性や就職内容などを重視し、「環境・建築学部」は資格を非常に重視し、「情報フロンティア学部」は「学科で学ぶ内容」「偏差値」を重視する傾向がうかがえた。

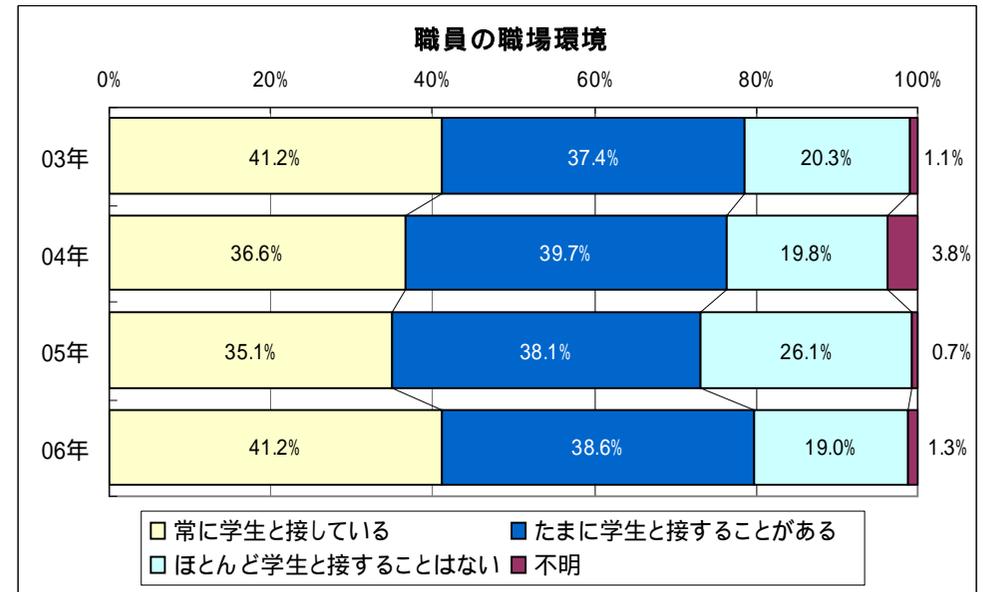
< 12-1 > 教職員のプロフィール

- 今回の調査では教員から157人、職員から153人の回答が得られた。
- 教員の所属は多いため06年のものを円グラフで示しているが、最も多かったのは「修学基礎教育課程・教職課程」の27人(17.2%)で、次いで「機械系」が12.7%、「情報フロンティア系」が10.8%、「工学基礎教育課程」が10.2%でやや多めであった。
- 職員に関しては学生との接し方によって3つの職場環境に分類した。最も多かったのは「常に学生と接している」で41.2%であった。
- 職員の職場環境を以前と比較すると、03年から05年までは「常に学生と接している」が継続的に減少していたが、06年には大幅に増加していた。そして、05年から06年にかけては「ほとんど学生と接することはない」が減少しており、職場環境の変化が学生との接点を意図的に増やしているのかは不明であるが、職員と学生の接点が増えているようであった。



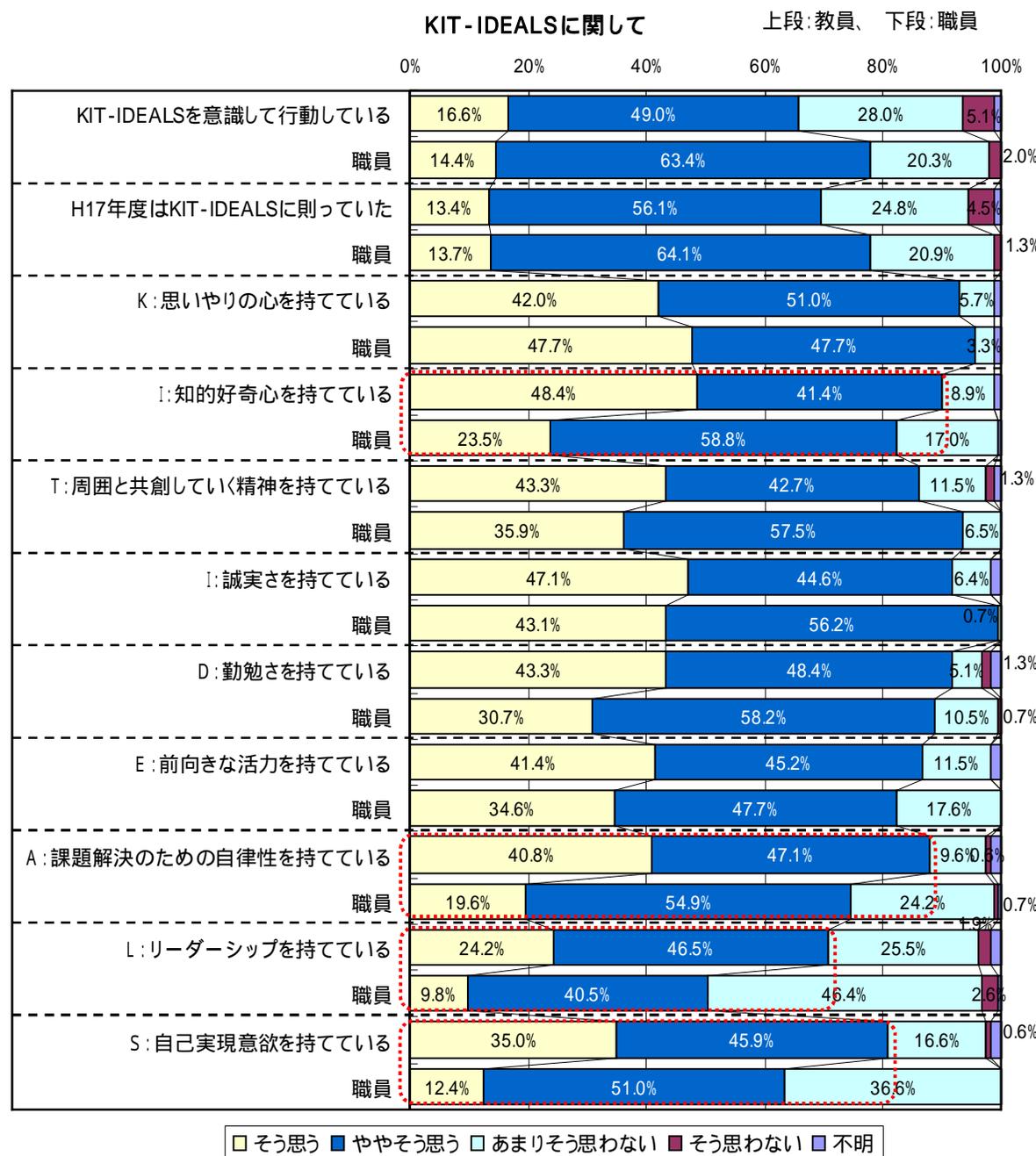
年度別 教員の所属比較

	05年		06年	
	実数	%	実数	%
機械系	19	12.6%	20	12.7%
電気系	10	6.6%	13	8.3%
情報系	11	7.3%	9	5.7%
化学系	8	5.3%	9	5.7%
環境系	9	6.0%	10	6.4%
建築系	12	7.9%	11	7.0%
情報フロンティア系	17	11.3%	17	10.8%
修学基礎教育課程・教職課程	26	17.2%	27	17.2%
工学基礎教育課程	16	10.6%	16	10.2%
工学基礎実技教育課程	11	7.3%	8	5.1%
その他	7	4.6%	12	7.6%
不明	5	3.3%	5	3.2%
総計	151	100.0%	157	100.0%



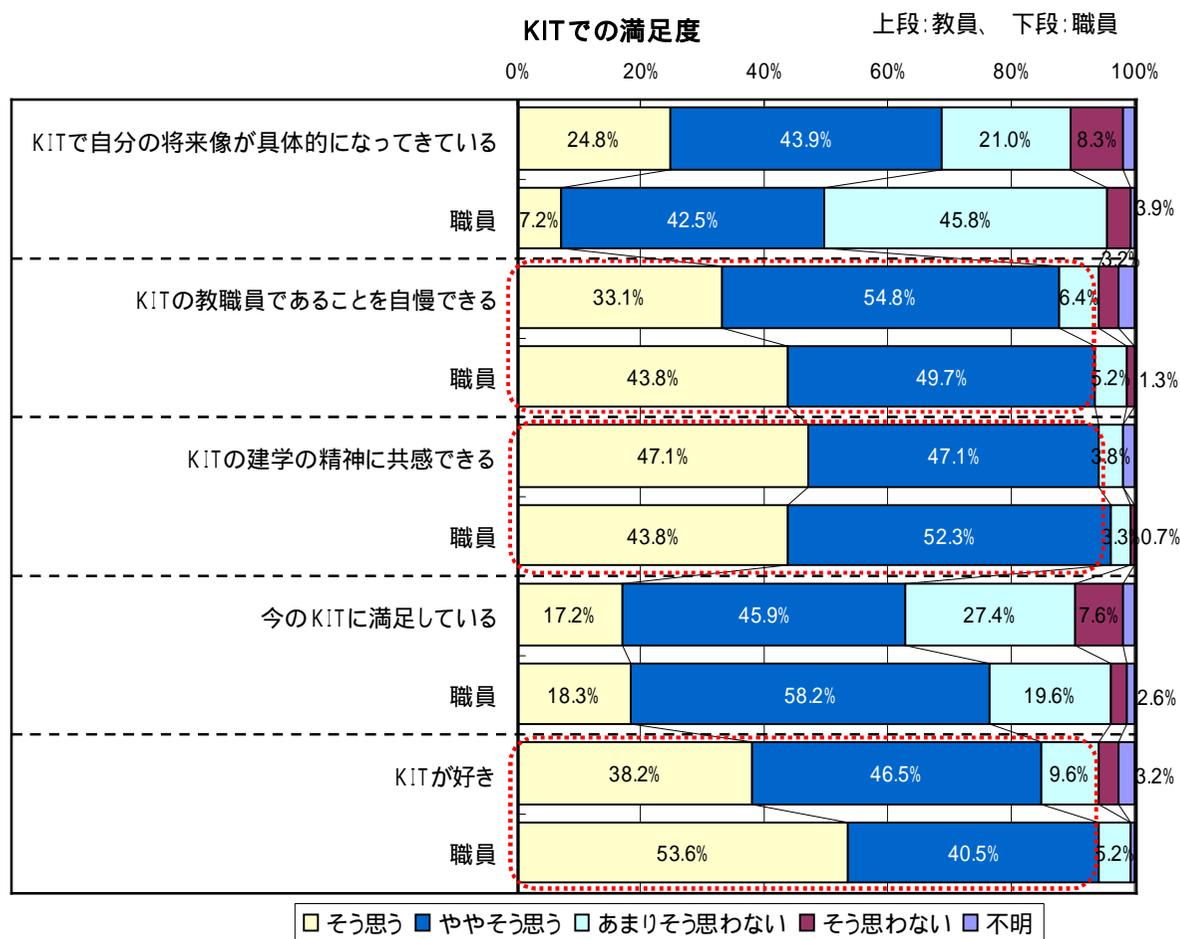
< 12-2 > KIT-IDEALSに関して

- KIT-IDEALSに掲げられた行動規範にどれだけ則って行動できたかを確認した。上段は教員で下段は職員の結果となる。
- 「そう思う」と「ややそう思う」を加えたところで確認すると、「I:誠実さを持っている」「T:周囲と共創していく精神を持っている」「D:勤勉さを持っている」「K:思いやりの心を持っている」といった精神的な面は比較的自信を持っているようであった。
- 一方、「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」といった面は充分ではないようであった。
- 教員と職員を比較すると、職員の方が「KIT-IDEALSを意識して行動している」「平成17年度はKIT-IDEALSに則っていた」という回答が多く、KIT-IDEALSをやや強めに意識しているようであった。
- しかし、「I:知的好奇心を持っている」「A:課題解決のための自律性を持っている」「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」では教員の方が達成度が高く、職員はこのあたりに課題がありそうであった。
- パーセンテージでは比較が難しいため、次項では加重平均で分析を行った。



< 12-3 > KITに対する満足度に関して

- KITに対する満足度として5つの項目を聞いた。
- まず重要な指標である「今のKITに満足している」では、教員の17.2%が「満足」、45.9%が「やや満足」と回答しており、合わせると63.1%が満足していると回答している。
- 一方、職員では18.3%が「満足」、58.2%が「やや満足」で、合わせて76.5%が満足しており、教員よりも13.4ポイント多かった。
- 「KITが好き」は、職員の方が「好き」という意見が多く、「ややそう思う」までの合計で見ると教員では84.7%が好きだと感じており、職員では94.1%が好きだと答えていた。特に職員は53.6%が「そう思う」と答えており、KITへの愛着が感じられた。
- その他では「KITの建学の精神に共感できる」「KITの教職員であることを自慢できる」では教員と職員の差が少なく、両者ともほぼ9割程度が肯定的な回答であった。
- そして、「KITで自分の将来像が具体的にできてきている」では教員の方が共感する意見が多く、職員では「そう思う」が7.2%、「ややそう思う」が42.5%であり、将来像が具体的にできてきているという回答は半数に満たなかった。
- 全体を見ると、KITに満足しているという回答は教員で63.1%、職員で76.5%と職員の方が多く、KITが好きだという回答も同じであり、現在の職場に関しては職員の方の満足度の方が高かった。ただし、将来像に関しては教員の方が具体的にできてきているようであり、職員は満足しつつも将来像がハッキリしないという状況にあるようであった。



継続的な改善活動のために!
在学生・卒業生・教職員

2006 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成18年8月9日
発行者	学校法人 金沢工業大学
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁